

令和 8 年度
授業要項 SYLLABUS
理学療法学科



学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校

基礎分野・専門基礎分野 目次

基礎分野 1 学年

心理学 前期	1
心理学 後期	2
文学 前期	3
教育学 後期	4
社会学 前期	5
物理学 前期	6
生物学 前期	7
生物学 後期	8
統計学 前期	9
英語 前期	10
医学英語 後期	11
保健学講義 後期	12
体育学講義 後期	13
体育学実習 前期	14

専門基礎分野 1 学年

解剖学Ⅰ 前期	15
解剖学Ⅱ 後期	16
解剖学Ⅲ 後期	17
生理学講義 前期	18
生理学講義 後期	19
運動学講義 後期	20
人間発達学 後期	21
予防理学療法学 前期	22
保健医療福祉論 前期	23
保健医療福祉論 後期	24
リハビリテーション倫理学 前期	25

専門基礎分野 2 学年

生理学実習 前期	27
運動学実習 前期	28
病理学 前期	29
臨床心理学 前期	30
一般臨床医学 後期	31
内科学 前期	32
内科学 後期	33
整形外科学 前期	34
整形外科学 後期	35
神経内科学 前期	36
神経内科学 後期	37
精神医学 前期	38
精神医学 後期	39
小児科学 前期	40
老年学 後期	41
リハビリテーション医学 前期	42

理学療法専門分野 目次

1 学年

基礎理学療法学Ⅰ 前期	43
基礎理学療法学Ⅱ 前期	44
理学療法評価学Ⅰ 前期	45
理学療法評価学Ⅰ 後期	46
運動療法学Ⅰ 後期	47
物理療法学Ⅰ 後期	48
義肢装具学Ⅰ 後期	49
障害対応生活環境論 前期	50
見学実習 後期	51

2 学年

病態運動学 前期	53
病態運動学 後期	54
理学療法評価学Ⅱ 前期	55
理学療法評価学Ⅱ 後期	56
理学療法評価学Ⅲ 前期	57
理学療法評価学Ⅲ 後期	58
理学療法評価学Ⅳ 前期	59
理学療法評価学Ⅳ 後期	60
運動療法学Ⅱ 前期	61
運動療法学Ⅲ 後期	62
運動療法学Ⅳ 後期	63
運動療法学Ⅴ 後期	64
物理療法学Ⅱ 前期	65
物理療法学Ⅱ 後期	66
障害対応生活技術論 前期	67
障害対応生活技術論 後期	68
義肢装具学Ⅱ 前期	69
義肢装具学Ⅱ 後期	70

機能障害治療科学 前期	71
疾患別理学療法学Ⅰ 後期	72
疾患別理学療法学Ⅱ 後期	73
疾患別理学療法学Ⅲ 後期	74
地域理学療法学Ⅰ 後期	75
評価実習 通年	76

3 学年

理学療法研究法 後期	77
総合理学療法学 後期	78
理学療法教育管理論 後期	79
疾患別理学療法学・運動器 後期	80
疾患別理学療法学・呼吸器 後期	81
疾患別理学療法学・循環器 後期	82
疾患別理学療法学・小児期 後期	83
疾患別理学療法学・老年期 後期	84
地域理学療法学Ⅱ 後期	85
総合臨床実習 前期	86

資料

資料1 テキスト一覧	87
資料2 カリキュラムマップ	88
資料3 教育課程表(1・2学年)	90
資料4 教育課程表(3学年)	92

基礎分野

科目名	心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	川野 卓二				
科目概要 一般目標 行動目標	人の心や精神を科学としての心理学の方法を用いて理解するための枠組みとなる基本的な事柄を授業で取り上げる。心理現象を様々な立場から理解し判断できるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。				
回数	講義内容				
1	序:心理学とは・なんのために学ぶのか				
2	臨床心理学:心理学的問題に対応する(第1章:臨床心理学)				
3	性格心理学:性格を捉える方法(第2章:性格と個人差の心理学)				
4	性格の形成と変容				
5	社会的行動と態度・コミュニケーション(第3章:社会的行動の心理学)				
6	集団の働きとリーダーシップ				
7	発達心理学:幼年期の発達(第4章:発達心理学)				
8	児童期, 青年期, 成人期, 老年期				
9	心理学的アセスメント:知能と発達(第5章:心理的アセスメント)				
10	適正・性格のアセスメント				
11	環境をとらえる知覚(第6章:知覚・認知・記憶の心理学)				
12	記憶と認知				
13	行動と心理学:本能的行動と学習行動(第7章:行動と学習の心理学)				
14	学習心理学:				
15	心理学の歴史:さまざまな心理学(第8章:心理学の歴史)				
16	心理学のこれから				
	前期試験				
教科書 及び 参考書	サトウタツヤ・渡邊芳之(著)「心理学・入門」改訂版 有斐閣アルマ				
教授方法	講義				
教材	プリントなど				
成績評価	まとめノート2回(20%)・課題(10%)・期末試験(70%)				
	備考				
	1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。				

科目名	心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	川野 卓二				
科目概要 一般目標 行動目標	医療関連分野で働くことに備えて、社会人基礎力に関わる心理、健康心理学、医療心理学、ポジティブ心理学などの分野について授業で取り上げる。また、心理学実験を体験し、収集したデータの整理、分析と報告を通じて心理学的な方法に関する基礎知識を習得することを目的とする。				
回数	講義内容				
1	社会人基礎力の心理:前に踏み出す				
2	社会人基礎力の心理:考え抜く				
3	社会人基礎力の心理:チームで働く(1)				
4	社会人基礎力の心理:チームで働く(2)				
5	データから心を探る研究の方法 (第9章:心理学の研究法)				
6	心理学実験:トレイルメイキングTest				
7	データから心を探る:データの整理と分析 (第9章:心理学の研究法)				
8	心理学実験:実験結果の整理と報告				
9	健康・医療心理学(1)				
10	健康・医療心理学(2)				
11	幼少期・児童期の心の障害				
12	青年期・熟年期の心の障害				
13	老年期の心の障害:心理療法・臨床心理学的援助				
14	恋愛心理学				
15	ポジティブ心理学				
16	OT・PTと臨床心理学的かかわり				
	後期試験				
教科書 及び 参考書	サトウタツヤ・渡邊芳之(著)「心理学・入門」改訂版 有斐閣アルマ				
教授方法	講義・実験				
教材	プリントなど				
成績評価	まとめノート2回(20%)・課題(10%)・期末試験(70%)				
	備考				
	1日に2コマの授業を隔週で行う予定です。				

科目名	文学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	余郷 裕次				
科目概要	子どもが最初に接する文学である絵本を取り上げて、その視覚表現と文字表現とのメカニズムを明らかにする。また、文学(絵本)を享受する側のメカニズムを視覚と聴覚との両面から明らかにする。さらに、日本の伝統的短詩形文学である短歌を取り上げて、短歌の実作に取り組む。				
回数	講義内容				
	1. 絵本の視覚表現について、次の観点から講義する。				
1	①フロンタリティー(正面性)				
2	②画面構成				
3	③色の効果				
4	④進行方向				
5	⑤絵本モニタージュ				
	2. 絵本の文字表現について、次の観点から講義する。				
6	①繰り返し表現				
7	②物語性				
8	③文字のデザイン				
	3. 絵本を享受するメカニズムについて、次の観点から講義する。				
9	①ベビーシエマ(赤ちゃんの顔)の効果				
10	②色の効果				
11	③母親語(motherese)の効果				
	4. 短歌を取り上げて、自作に取り組む。				
12	①短歌創作の基礎				
13	②短歌の創作				
14	③短歌の連作の創作				
15	④歌集の制作				
教科書 及び 参考書	余郷 裕次 著 『絵本のひみつ - 絵本の知と読み聞かせの心 - 』 徳島新聞社				
教授方法	講義				
教材	配布プリント				
成績評価	出席、講義への参加態度、レポート、定期試験等を総合的に評価する。				
	備考				

科目名	教育学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	湯地 宏樹				
科目概要	<p>本授業は、本学のカリキュラムにおける【基礎分野】に位置づけられる科目である。「教育とは何か」について、理学療法士、作業療法士としての自分の問題として振り返ることを目的としている。そのために、保健・医療・福祉の分野と保育・教育学の分野との接点を探りながら、乳幼児期からの人間の成長と発達における教育の意義について考察するとともに、学習指導や生活指導の方法や技術について具体的に学んでいく。</p>				
回数	講義内容				
1	社会の中の看護と教育				
2	教育とはなにかー「教育」の概念				
3	教育の対象ー子ども観と発達				
4	社会変動と教育				
5	教育の組織化ー学校				
6	教授ー人を教えるということ				
7	訓育ー他者とのかかわりを導く				
8	養護ー教育の受け手を見まもる				
9	発達ー教育を受けて成長する				
10	学びの場ー学校と家庭				
11	教育の目標と評価				
12	教育のメディアー教育をデザインする				
13	教育の担い手ー専門性と専門職性				
14	教育の場をつくるしくみ				
15	まとめ				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書	『系統看護学講座 基礎分野教育学(第8版)』医学書院, 2021年 (ISBN978-4-260-04215-4)				
教授方法	授業はおもに講義形式で行う。				
教材	視聴覚教材を使用する。また随時、資料を配布する。				
成績評価	定期試験(50%)、レポート課題(30%)、授業への参加度(20%)を総合的に評価する。				
備考					
授業はプレゼンテーションソフトを用いて行うので、ノートを活用すること。					

科目名	社会学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	平井 昭夫				
科目概要	社会学の目的は、(1)私たちの身近にある様々な社会現象を学びつつ、(2)社会学的な思考力を身につけていくことにある。講義では、学ぶことを通じて、私たちを取り巻く世界を知り、社会のしくみを理解する。そして自分はどうのような社会を生きており、そこで何をしたいのか、何ができるのかを考える出発点としたい。具体的には、①私たちの社会に関わる様々な課題を取り上げ、いかに考え対処していくのか、②古今東西のリーダーが残した言葉を学び、現代社会に生きる私たちの在り方や役割は何か、などを柱に学習する。加えて、将来の職業人としての資質を養う。				
回数	講義内容				
1	1. 社会学を学ぶ意義 ○講義の内容・進め方等についてオリエンテーションを実施				
2	2. 格差と貧困 ○なぜ格差問題か ○格差は拡大しているか				
3	格差と貧困 ○現代社会の貧困 ●リーダーに学ぶ(1)				
4	3. 恋愛と結婚 ○恋愛と結婚の関係 ○日本の家族の歴史				
5	恋愛と結婚 ○結婚と家族の現在 ●リーダーに学ぶ(2)				
6	4. ジェンダー ○ジェンダーを理解する				
7	5. 関係性と暴力 ○ハラスメントを理解する ○なぜ暴力に頼るのか				
8	関係性と暴力 ○『嫌われる勇気』 ●リーダーに学ぶ(3)				
9	6. 権力 ○社会学における権力論 ○私たちをとりまく権力				
10	権力 ○権力作用としての差別 ●リーダーに学ぶ(4)				
11	7. 自殺 ○現代日本の自殺 ○社会学における自殺論				
12	8. 医療 ○近代医療を理解する ○民族医療と代替医療				
13	医療 ○医療化する社会 ●リーダーに学ぶ(5)				
14	9. 社会の中で働くこと ○感情労働の発見 ○感情労働としてのケア ●リーダーに学ぶ(6)				
15	10. まとめ ○社会学を学び、人はどうすれば幸せになれるかを考える				
	定期試験				
教科書 及び 参考書	教科書は使用しない。				
教授方法	講義が単調にならないように配慮し、「穴埋め式」のプリントを作成・配布し、学生は講義を聞き記入しながら学習する。また、いくつかのテーマを与えレポートの提出を求める。				
教材	講義用「穴埋め式」のプリント、資料プリント、レポート用紙・・・講師のほうで準備する。				
成績評価	課題提出(10回程度)・・・1回30点を標準とし30点満点、試験・・・70点満点とする。				
	備考				
	講義,レポートの提出・返却等を通じて、学生とのコミュニケーションを図る。				

科目名	物理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	和田 英作				
科目概要	人体の骨格や筋は力学と、血流や血圧は流体と、神経や心電、脳波は電気と関係があり、物理学は医学の基本として重要なものであることを理解する。また、物理学の本質である論理的にものを考える力を体得する。				
回数	講義内容				
1	物理学の内容、物理学を支える5本柱(力学、熱学、波学、電気学、量子学)				
2	物理学を作り上げた16世紀のビッグな人々、SI単位系 (MKSA単位系)				
3	1. 力学の世界 (1)位置、速度、加速度の定義と関係式				
4	(2)等加速度運動する物体の位置の求め方 (3)ボール投げ上げ運動の式				
5	(4)ベクトルと物理量 (5)ベクトルを用いた速度・加速度・位置の求め方				
6	(6)ベクトルの成分を表す式 (7)微分・積分を用いた速度・加速度・位置の式				
7	(8)ニュートンの運動の3法則(慣性の法則 運動の法則 作用・反作用の法則)				
8	(9)数値計算での有効数字 (10)万有引力の式 (11)基本的な4つの力				
9	(12)運動方程式の使い方 (13)運動量とは (14)運動量保存則				
10	(15)仕事量(エネルギー) (16)位置エネルギーと運動エネルギー				
11	(17)エネルギー保存則 (18)てこの原理と種類およびモーメントの式				
12	2. 波と光と音の世界 (1)音波の速さ (2)横波と縦波 (3)光の速さ				
13	3. 電気と磁気の世界 (1)電荷と電流(2)電気学、量子学におけるビッグな人々				
14	4. 医療現場で使われる診断装置(超音波診断(エコー)、MRI、NMR-CT)				
15	(1)定期試験演習問題の提示と解き方 (2)国家試験問題の提示と解き方				
16	定期試験答案返却と正解の解説				
教科書 及び 参考書	中野正博 : 「看護・医療技術者のためのたのしい物理学 第2版」 オーム社				
教授方法	物理学各分野と医療との関わりを説明し、理解を深めるため例題を解説する				
教材	講義内容をよりわかりやすく解説したプリントを配布して教科書と併用する				
成績評価	定期試験の成績で評価する				
備考					
物理学に興味を持ち、積極的に授業を受講して下さい					

科目名	生物学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	山口 寛				
科目概要	理学療法士、作業療法士として必要な生物学の基礎知識を広く学習する。 細胞、組織器官、器官系の構造と働き、物質代謝とエネルギー代謝、恒常性の維持などについて科学的に学習していく。				
回数	講義内容				
1	第1章 生物と細胞				
2	細胞の構造と機能				
3	細胞の構造と機能(細胞の増殖と測定)				
4	第2章 個体の成り立ち(組織)				
5	個体の成り立ち(器官)				
6	個体の成り立ち(器官系)				
7	第3章 細胞生理 原形質の化学組成				
8	細胞膜の働き				
9	第4章 生体内の物質の流れと働き				
10	物質代謝(同化)				
11	物質代謝(異化)				
12	異化生成物(腎臓の構造と働き)				
13	第5章 からだの恒常性の維持				
14	内部環境としての体液(血液の働きと血液型)				
15	血液によるからだの防衛(抗原抗体反応)				
教科書 及び 参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社				
教授方法	講義、演習				
教材	必要に応じて資料作成				
成績評価	定期試験、レポート				
備考					
受講に対する留意点など: 予習と復習に励む。					

科目名	生物学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	山口 寛				
科目概要	前期に継続して学習を進める。 後期では、からだの恒常性維持、神経系とその働き、刺激と反応、生命の連続性について、DNA中心に分子生物学についても学習する。				
回数	講義内容				
1	第5章 からだの恒常性の維持				
2	神経系とその働き				
3	第6章 外的刺激の受容				
4	感覚器とその働き				
5	からだの内部感覚				
6	第7章 生殖 減数分裂				
7	生殖と受精				
8	第8章 発生 発生の順序				
9	ヒトの発生				
10	発生のしくみ(オルガナイザー等)				
11	第9章 遺伝 メンデルの法則				
12	連鎖と交叉				
13	ヒトの遺伝(血液型、色盲、血友病等)				
14	核酸DNA等の構造と働き				
15	たんぱく質と形質発現、遺伝子組み換えについて				
教科書 及び 参考書	新体系看護学基礎科目「生物学」メディカルフレンド社 生物辞典 旺文社				
教授方法	講義、問題演習				
教材	必要に応じて資料(プリント)作成				
成績評価	定期試験、レポート				
備考					
受講に対する留意点など: 予習と復習に励む。					

科目名	統計学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	小柴 俊彦				
科目概要	<p>データの取り方, まとめ方, 統計的推測の基本的考え方を学習し“統計学に基づく考え方”を養う。</p> <p>学習内容: 1. データの整理(1次元データ, 2次元データ) 2. 代表値と散布度, 相関係数 3. 確率変数と確率分布(正規分布と応用, t値不等) 4. 統計学的推測の考え方と検定の方法</p>				
回数	講義内容				
1	1. データの整理				
2	(1)度数分布表 (2)度数分布表の図示(ヒストグラム, 度数折線)				
3	2. 代表値と散布度, 相関係数				
4	(1)代表値				
5	(2)散布度				
6	(3)相関係数				
7	3. 確率変数と確率分布				
8	(1)確率変数				
9	(2)正規分布				
10	(3)いろいろな確率分布				
11	4. 統計的推測				
12	(1)統計的推測の考え方				
13	(2)母平均の検定				
14	(3)母平均の差の検定(I)				
15	(4)母平均の差の検定(II)				
16	(5)いろいろな検定				
教科書 及び 参考書	「基礎統計」著者 高遠節夫他2名 : 培風館				
教授方法	プロジェクターを用いての講義と演習				
教材	配布資料				
成績評価	定期試験と演習課題				
備考					
授業中に指示された演習課題は必ず提出すること。					

科目名	英語	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	大久保 民枝				
科目概要	今日、病院を訪れる外国人が増えているし、また医療の現場で使われる英語もある。この授業は英会話を聞いて理解し、また病院などで使われる英語に関して理解力を高めるのが目的である。教科書は下記の2冊を使う。教科書①は英会話の理解力を高めるために使う。毎週授業毎に1Lessonずつ進む。教科書②は病院の現場を想定して作られたテキストであり、病院の治療現場に関係した会話、用語が多く使われている。このテキストは毎週使うが、進むスピードに関しては毎週1Unitずつ進むのではなく、時間の許すかぎり前に進んでいくという形になる。さらに、授業の途中でリラックスする目的で英語の歌が紹介される。				
回数	講義内容				
1	教科書② Lesson 1)	“Description”			「Unit 1」
2	” Lesson 2)	“Recorded Messages”			「Unit 1」
3	” Lesson 3)	“Conversation 1”			「Unit 1」
4	” Lesson 4)	“Position”			「Unit 2」
5	” Lesson 5)	“Math Quiz 1”			「Unit 2」
6	” Lesson 6)	“Announcement”			「Unit 3」
7	” Lesson 7)	“Graph 1”			「Unit 3」
8	” Lesson 8)	“News”			「Unit 4」
9	” Lesson 9)	“Quick Response”			「Unit 4」
10	” Lesson 10)	“On the Radio”			「Unit 5」
11	” Lesson 11)	“Interview on the Street”			「Unit 5」
12	” Lesson 12)	“Speech”			「Unit 6」
13	” Lesson 13)	“Conversation 2”			「Unit 6」
14	” Lesson 14)	“Math Quiz 2”			「Unit 7」
15	” Lesson 15)	“Report”			「Unit 7」
16	定期試験				
教科書及び参考書	①「Hyper Listening(Intermediate)」4th Edition 桐原書店 ②「20Medical Dialogs」古閑博美、垂石幸与、他著 鷹書房弓プレス				
教授方法	講義、演習、小テスト				
教材	教科書2冊、講師作成のプリント、CD				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
教科書②に関して、毎週授業ごとに前の週の内容に関する小テストを実施する。また、教科書①に関してはQRコードがついており、QRコードを使って音声をダウンロードできる。各人がクラスへ来る前に家庭学習できるようになっている。					

科目名	医学英語	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	大久保 民枝				
科目概要	卒業後理学療法士、作業療法士として働くとき、英語で書かれた本や論文を読む必要が出てくるかもしれない。その時のために、医療の現場でよく使われる英語表現に慣れ親しんでおくというのがこの授業の目的である。教科書は1冊使う。教科書①は前期から継続して使うものであり、それ以外に講師作製のプリント「医学英語(1)-(15)」が使われる。さらに長文を学習するために講師作成の別のプリントも使用される。				
回数	講義内容				
1	教科書①	「Unit 10:1」	リハビリ室での会話	②プリント	(1)
2	〃	「Unit 10:2」	リハビリ室での会話	〃	(2)
3	〃	「Unit 11:1」	基本的指示とリスク対策	〃	(3)
4	〃	「Unit 11:2」	基本的指示とリスク対策	〃	(4)
5	〃	「Unit 12:1」	関節可動域訓練	〃	(5)
6	〃	「Unit 12:2」	関節可動域訓練	〃	(6)
7	〃	「Unit 13:1」	早期座位とベッドサイド訓練	〃	(7)
8	〃	「Unit 13:2」	早期座位とベッドサイド訓練	〃	(8)
9	〃	「Unit 14:1」	車椅子と移乗動作	〃	(9)
10	〃	「Unit 14:2」	車椅子と移乗動作	〃	(10)
11	〃	「Unit 15:1」	マット上訓練	〃	(11)
12	〃	「Unit 15:2」	マット上訓練	〃	(12)
13	〃	「Unit 16:1」	立ち上がり訓練	〃	(13)
14	〃	「Unit 16:2」	立ち上がり訓練	〃	(14)
15	〃	「Unit 17:1」	歩行訓練	〃	(15)
16	定期試験				
教科書及び参考書	①「20Medical Dialogs: 古閑博美、垂石幸与、他著 (鷹書房弓プレス) ② 講師が作成したプリント				
教授方法	講義、演習、小テスト				
教材	教科書2冊、プリント、CD				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
	備考				
	前の週の授業内容に関する小テストを実施する。このことにより、どれだけ身についたかが試される。				

科目名	保健学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では、定期的な運動(トレーニング)による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、生活習慣病の予防・健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。				
回数	講義内容				
1	トレーニングと骨格筋代謝				
2	トレーニングと呼吸循環機能Ⅰ				
3	トレーニングと呼吸循環機能Ⅱ				
4	トレーニングと神経				
5	トレーニングと骨				
6	筋力・持久力の発育・発達				
7	全身持久力の発育・発達				
8	トレーニングと加齢				
9	トレーナビリティと性差				
10	高血圧症と運動				
11	糖尿病と運動				
12	肥満症と運動				
13	肥満症と運動				
14	認知症と運動				
15	運動強度の設定				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材	随時、参考資料を配付				
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合判断				
備考					

科目名	体育学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では一過性の運動による身体機能・構造の変化を主に運動生理学的な視点から概説し、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することを目的とする。				
回数	講義内容				
1	身体組成				
2	骨格筋組成				
3	骨格筋の代謝				
4	呼吸機能				
5	循環機能Ⅰ				
6	循環機能Ⅱ				
7	最大酸素摂取量				
8	エネルギー消費量				
9	三大栄養素				
10	ビタミン、ミネラル				
11	運動時のエネルギー補給				
12	エネルギー摂取と消費との関係				
13	環境と身体機能Ⅰ				
14	環境と身体機能Ⅱ				
15	ドーピング				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材	随時、参考資料を配付				
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価				
備考					

科目名	体育学 実習	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	本講義では、健康づくりに関する身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法を実践することを目的とする。				
回数	講義内容				
1	バレーボール(基礎的動作の習得)				
2	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅰ)				
3	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ)				
4	バレーボール(アンダーハンド、オーバーハンドの習得Ⅱ)				
5	バレーボール(スパイクの習得)				
6	バレーボール(コンビネーションプレーの習得Ⅰ)				
7	バレーボール(戦術の習得)				
8	バスケットボール(基礎的動作の習得)				
9	バスケットボール(パスの習得)				
10	バスケットボール(ランニングシュートの習得)				
11	バスケットボール(1 vs. 1のオフense、ディフェンスの習得)				
12	バスケットボール(2 vs. 1のオフense、ディフェンスの習得)				
13	バスケットボール(3 vs. 2のオフense、ディフェンスの習得)				
14	バスケットボール(戦術の習得)				
15	スポーツマッサージの効果				
教科書 及び 参考書	なし				
教授方法					
教材					
成績評価	出席、授業態度、定期試験から総合評価				
	備考				

専門基礎分野 1 学年

科目名	解剖学 I	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	木戸玲子				
科目概要	<p>人体の正常構造を理解することを目的として、前期では骨学・関節および靭帯・筋学に関する肉眼的解剖学の基本知識を身につけ、構造と機能との関係を理解する。</p> <p>さらに、骨模型などを用いた実習を行い、各構成要素の構造・位置関係などを三次元的に理解する。</p>				
回数	講義内容				
1	解剖学とは。骨格(1) 総論				
2	骨格(2) 脊柱				
3	骨格(3) 胸郭、上肢①				
4	骨格(4) 上肢②				
5	骨格(5) 下肢①				
6	骨格(6) 下肢②				
7	骨格(7) 頭蓋①				
8	骨格(8) 頭蓋②				
9	関節・靭帯(1) 総論、頭蓋の連結				
10	関節・靭帯(2) 脊柱の連結				
11	関節・靭帯(3) 上肢の連結				
12	骨学・関節学実習(1)				
13	関節・靭帯(4) 下肢の連結①				
14	骨学・関節学実習(2)				
15	関節・靭帯(5) 下肢の連結②				
16	骨学・関節学実習(3)				
17	筋系(1) 総論、頭部の筋				
18	骨学・関節学実習(4)				
19	筋系(2) 頸部の筋				
20	筋系(3) 背部の筋				
21	筋系(4) 胸部の筋				
22	筋系(5) 腹部の筋				
23	筋系(6) 上肢の筋①				
24	筋系(7) 上肢の筋②				
25	筋系(8) 上肢の筋③				
26	筋系(9) 下肢の筋①				
27	筋系(10) 下肢の筋②				
28	筋系(11) 下肢の筋③				
29	筋系(12) 筋の神経支配①				
30	筋系(13) 筋の神経支配②				
教科書 及び 参考書	<p>1) 日本人体解剖学(改訂第20版、上・下) 南山堂</p> <p>2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店</p>				
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習				
教材					
成績評価	定期試験(筆記試験)を行う。不合格者は再試験を行う。				
	備考				

科目名	解剖学Ⅱ	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	木戸玲子				
科目概要	人体の正常構造を理解することを目的として、後期では組織学・内臓学および発生学に関する解剖学の基本知識を身につけ、構造と機能の関連性を理解する。さらに、各内臓器官相互の連関を理解するために必要な基本知識を学んでいく。				
回数	講義内容				
1	細胞				
2	上皮組織				
3	結合組織(1)				
4	結合組織(2)				
5	軟骨組織				
6	骨組織				
7	血液(1)				
8	血液(2)				
9	筋組織				
10	神経組織				
11	脈管系(1) 心臓				
12	脈管系(2) 動脈系 ①				
13	脈管系(3) 動脈系 ②、静脈系、リンパ管系				
14	リンパ系組織)				
15	呼吸器				
16	消化器(1)				
17	消化器(2)				
18	消化器(3)				
19	泌尿器				
20	皮膚				
21	感覚器(1)				
22	感覚器(2)				
23	感覚器(3)				
24	生殖器(1)				
25	生殖器(2)				
26	生殖器(3)				
27	内分泌器(1)				
28	内分泌器(2)				
29	発生学(1)				
30	発生学(2)				
教科書 及び 参考書	1) 日本人体解剖学(改訂第20版、上・下) 南山堂 2) PT・OT・STのための解剖学 廣川書店				
教授方法	パワーポイント、板書、プリント、実習				
教材					
成績評価	定期試験(筆記試験)を行う。不合格者は再試験を行う。				
	備考				

科目名	解剖学Ⅲ	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	羽地達次				
科目概要	末梢神経を理解することで、中枢とのつながり(上行性、下行性伝導路)を把握し身体の運動と知覚の理解を深める。 神経系の大もととニューロンを理解し、大脳と脊髄(中枢神経)の構造とそこから出る末梢神経の働きを理解する。				
回数	講義内容				
1	脳の発生				
2	脊髄神経と神経叢				
3	頸神経叢とその枝				
4	腕神経叢とその枝 ①				
5	" ②				
6	胸神経				
7	腰神経叢とその枝				
8	仙骨神経叢とその枝 ①				
9	" ②				
10	上肢と下肢の発生にともなう神経分布				
11	脳神経 (1～7番)				
12	" (8～12番)				
13	脳幹における脳神経核				
14	下行性(運動性)伝導路				
15	上行性(知覚性)伝導路				
16	神経とは何か、神経系の系統発生、ニューロン、髄鞘形成				
17	シナプス、神経の変性と再生、中枢神経と末梢神経の概念				
18	大脳の外表面の構造と名称				
19	大脳半球内側面の構造と名称				
20	大脳の機能局在(脳地図など)				
21	大脳内部の構造と名称(基底核など)				
22	" (内包、視床、脳室など)				
23	" (線維連絡など)				
24	脳幹の構造と名称 (外部から)				
25	" (内部、脳神経核、伝導路)				
26	小脳の構造と名称 (外部から)				
27	" (内部、小脳核、伝導路)				
28	小脳の働き(特に錐体外路系における役割)				
29	脊髄の構造(知覚と運動)				
30	脊髄神経、自律神経				
教科書 及び 参考書	「PT・OT・STのための解剖学」 廣川書店 「日本人体解剖学(上) 改訂20版」金子丑之助 著 南山堂				
教授方法	主として教科書と参考書を利用して、PowerPointを用いて解説する。				
教材	適宜に他の本からPowerPointを作成して配布する。				
成績評価	授業の終了後、定期試験を行って評価する。				
	備考				
	授業の前半に前回の復習をする。				

科目名	生理学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	北岡和義				
科目概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。				
回数	講義内容				
1	1. からだの働きのしくみを学ぼう				
	人体の階層構造				
	細胞の構造と機能				
	膜輸送とシグナル伝達				
	恒常性				
2	生理学の理解に必要な化学や物理学の基礎知識				
	2. 物質の細胞膜透過				
	興奮性細胞とは何か				
	静止膜電位の発生のしくみ				
	活動電位の発生のしくみ				
	受容器電位				
	興奮の殿堂と伝達				
3	3. からだが感じる(感覚)				
	物理的・科学的刺激をかんじるしくみ				
	感覚の分類				
4	4. からだを動かす・支える				
	筋肉の種類と働き・骨格筋の構造				
	筋収縮の分子機構				
	筋肉への情報伝達				
	骨格筋収縮の種類と特性				
	不随意筋の収縮の特徴				
5	5. からだの中の情報を伝える				
	神経系の構成・機能的分類				
	神経細胞とグリア細胞				
	脊髄神経と脳神経				
6	6. からだとこころの司令塔				
	髄膜・髄液				
	血液脳関門と脳循環				
	脳と脊髄の構造				
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 生理学 第1版 (羊土社)				
教授方法	講義による				
教材					
成績評価	定期試験による				
	備考				

科目名	生理学 講義	単位数	2単位 60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	江口覚(20時間) 北岡和義(40時間)				
科目概要	生理学は医療に従事するものにとって、正常な生体機能を知る上で、非常に重要な学問である。人体諸器官の正常な機能を理解し、これらの器官が統合され、どのように生命が維持されるかについて学ぶ。また、適宜関連した細胞レベルのしくみにも触れ、理解を深める。				
回数	講義内容				
江口一1	からだをめぐって守る(血液)1 血液の組成と機能 造血のしくみ 赤血球	江口一3	からだ中に血液をめぐらせる(循環器) 心臓のポンプ作用と心周期 心臓の電氣的興奮 循環の特性		
江口一2	からだをめぐって守る(血液)2 白血球 血小板 血液凝固と線維素溶解	北岡一5	栄養を取り込み代謝する(消化・吸収)1 消化と吸収のしくみ 消化管の構造と機能		
北岡一1	からだのバランスを保つ(自律神経系) ニューロンの交代と二重支配 自律的支配と緊張性支配	江口一4	からだの働きを調節する(内分泌器) 内分泌とホルモン 各臓器のホルモン ホルモンによる調節機構		
北岡一2	からだに酸素を取り込む(呼吸器)1 呼吸の構造と機能 肺気量分画と気流速度	北岡一6	栄養を取り込み代謝する(消化・吸収)2 消化管に付属する器官の構造と機能 栄養素の種類と役割		
北岡一3	からだに酸素を取り込む(呼吸器)2 呼吸運動のしくみ 肺循環・呼吸の調節機能 呼吸の病態生理	北岡一7	もうひとりのからだをつくる(生殖器) 性の分化 男性生殖器・女性生殖器 妊娠・分娩		
北岡一4	からだの液体成分を調節する(泌尿器) 腎臓の機能と構造 水や電解質・栄養素の再吸収 腎臓の機能評価・排尿・内分泌機能	北岡一8	からだの熱を保つ(体温) 体温とは 熱の出納 体温の調節 発熱とうつ熱・低体温		
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 生理学 第1版 (羊土社)				
教授方法	講義による				
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	運動学 講義	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	三浦 哉				
科目概要	<p>運動学は、解剖学や生理学等の基礎医学分野を礎として構築され、物理学、心理学、社会学等の多岐にわたる学際的領域の要素をも内包している。</p> <p>本講では、理学療法や作業療法に有用となる運動学の学理的基礎に対する認識を深めるとともに、2年次に開講する運動学実習との連動によって、身体活動を科学的に解析する技能を修得することを目的とする。</p>				
回数	講義内容				
1	力学概論 バイオメカニクス概論				
2	体力医科学概論				
3	運動学各論:骨・関節系				
4	運動学各論:筋系				
5	運動学各論:神経系				
6	運動学各論:感覚器系				
7	運動学各論:呼吸器				
8	運動学各論:循環器系				
9	運動学各論:代謝系 内分泌系				
10	運動学各論:上肢帯と上肢				
11	運動学各論:下肢帯と下肢				
12	運動学各論:体幹				
13	運動学各論:姿勢 歩行と走行				
14	運動生理学各論:体温調節と暑熱障害 運動処方				
15	運動心理学各論:運動発達と運動学習				
教科書 及び 参考書	中村隆一著「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版株式会社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験等				
備考					

科目名	人間発達学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	鈴木敏昭				
科目概要	人の誕生から老年期までの生涯にわたる心身の成長・発達の概要を解説する。 その中で、人の各発達段階における身体生理的特徴、心理的社会的発達の特徴について具体的に学習し、理解を深め、その援助のあり方を追求して、活かせるようにする。				
回数	講義内容				
1	はじめに:人間発達学のねらいと概要				
2	乳児期の身体的生理的特徴				
3	乳児期の心理的特徴と不適応問題				
4	幼児期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
5	幼児期の心理的不適応問題				
6	児童期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
7	児童期の心理的不適応問題				
8	青年期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
9	青年期の心理的不適応問題				
10	成人期の身体的生理的特徴と心理的特徴				
11	成人期の心理的不適応問題				
12	老年期の身体的生理的特徴				
13	老年期の心理的特徴				
14	老年期の心理的不適応問題				
15	まとめと生涯発達心理を理解することの大切さについて				
教科書 及び 参考書	参考書は適宜紹介する。				
教授方法	毎回プリントを配布しながら、心理テストをまじえて、講義する。				
教材	資料プリント				
成績評価	毎回の小提出物と定期試験などを総合的に評価。				
備考					

科目名	予防理学療法学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	予防理学療法学の分野における領域や制度などを学習し、予防分野における理学療法士の役割や必要な知識を教授する。				
一般目標	予防理学療法学の定義、制度などの概説を理解し、それぞれの領域における理学療法士の役割を学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・予防理学療法の定義について説明できる。 ・予防理学療法にかかわる制度について説明できる。 ・予防理学療法についての基本的な知識について説明できる。 ・それぞれの領域における理学療法士の役割について説明できる。 				
回数	講義内容				
1	予防理学療法学概説① 予防理学療法の定義、予防理学療法学の領域				
2	予防理学療法学概説② 予防理学療法学にかかわる制度、予防理学療法学の研究法				
3	予防理学療法学のための理解① 栄養学、スポーツ、コミュニケーションについて				
4	予防理学療法学のための理解② 発達と老化、学童期の予防と検診について				
5	予防領域における理学療法士の役割、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームについて				
6	廃用症候群の予防① 運動器の機能低下、転倒、低栄養、口腔・嚥下機能低下				
7	廃用症候群の予防② 呼吸機能低下、心血管機能低下、抑うつ、骨盤底機能低下				
8	認知症の予防、労働災害の予防				
9	再発予防① 脳卒中、心疾患				
10	再発予防② 呼吸器疾患、整形外科疾患				
11	スポーツを利用した予防、メンタルヘルス				
12	ウイメンズヘルス・メンズヘルス				
13	ヘルスコミュニケーション				
14	コミュニティ・プロモーションのマネジメント				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	予防理学療法学 要論				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	保健医療福祉論	単位数	2単位 30時間/60時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	リハビリテーションの理念とその過程、チーム医療について教授するとともに、理学療法の役割についても学習する。				
一般目標	リハビリテーションの必要性について理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念を理解する ・リハビリテーションの過程を理解する ・チーム医療について理解する ・理学療法の役割について理解する 				
回数	講義内容				
1	リハビリテーションとは				
2	リハビリテーションの理念				
3	リハビリテーションの目的				
4	リハビリテーションの諸段階				
5	リハビリテーションの諸領域・自立支援・就労支援				
6	医療・保健・社会福祉とリハビリテーション				
7	病気と障害				
8	障害のとらえ方				
9	ICIDH				
10	ICF				
11	リハビリテーションの過程				
12	チーム医療				
13	リハビリテーション関連職種・多職種連携				
14	リハビリテーションの手段				
15	障害者スポーツについて				
教科書 及び 参考書	リハビリテーション概論のいろは 南江堂				
教授方法	講義				
教材	教科書・プリント				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 100点満点で定期試験90点、レポート課題10点の割合で評価す				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	保健医療福祉論	単位数	2単位 30時間/60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	保健・医療・福祉に関連した基礎知識や制度について教授する。				
一般目標	保健・医療・福祉制度の概要、主な疾患や障害について理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉に関する法律や制度を理解する。 ・主な疾患や障害について理解する 				
回数	講 義 内 容				
1	人間活動と発達				
2	リハビリテーションと心理				
3	生活習慣病・認知症				
4	リハビリテーションを支える保障制度				
5	リハビリテーション関連法規				
6	地域リハビリテーション・地域包括支援システム				
7	リハビリテーション工学				
8	歩行と移動				
9	歩行補助具				
10	栄養とリハビリテーション				
11	サルコペニア・フレイル				
12	嚥下過程と嚥下障害				
13	高齢化社会とリハビリテーション:生活期リハビリテーション				
14	高齢化社会とリハビリテーション:生活支援				
15	高齢化社会とリハビリテーション:訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション				
教科書 及び 参考書	リハビリテーション概論のいろは 南江堂				
教授方法	講義				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	リハビリテーション倫理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	医療人としてリハビリテーションの概念とそのなかで用いられる障害およびチームアプローチについて理解する。				
一般目標	医療に関わる組織人としての倫理について学ぶ。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療提供者としての医療倫理および患者の権利を理解する。 ・人的、組織的および情報等に関する管理を理解する。 ・チーム医療における理学療法士の役割と機能について理解する。 				
回数	講義内容				
1	インフォームド・コンセントの歴史的背景と法的、倫理的背景				
2	医療従事者の責務				
3	医療従事者の責務				
4	EBM				
5	チーム医療における理学療法士の役割と機能				
6	患者や家族とのコミュニケーション				
7	リスクマネジメントにも不可欠な接遇				
8	リハビリテーションアプローチについて				
9	理学療法アプローチと心理				
10	障害と心理				
11	リハビリテーションと情報化社会				
12	個人情報保護について				
13	情報化社会と医療倫理				
14	職業倫理				
15	ISO				
教科書 及び 参考書	教科書:特に無し 必要に応じて資料配付				
教授方法	講義				
教材	配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

専門基礎分野 2 学年

科目名	生理学 実習	単位数	1単位 45時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	北岡和義				
科目概要	1年次で得た生理学の講義内容について、実習において自らデータ取得および考察を進めることにより深める。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション				
	実習				
2	1. 表面電極による記録				
3	2. 心電図				
4	3. 息こらえ中の心拍数と血圧				
5	4. バルサルバ試験				
6	5. 深部感覚				
7	6. 最大酸素摂取量				
8	7. 酸素負債				
9	8. 2点識別閾				
教科書 及び 参考書	「コメディカルのための生理学実習ノート」 南江堂(参考書) 「PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 生理学」 羊土社				
教授方法	学内実習				
教材					
成績評価	出席点 レポート点				
	備考				

科目名	運動学 実習	単位数	1単位 45時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)・村上和広(理学療法士として実務経験5年) 向島充(理学療法士として実務経験6年)・芳野一也(理学療法士として実務経験6年) 出口純次(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	運動学実習では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、「運動学」において学修した知識を応用し、実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。				
一般目標	身体各部の生態計測（形態）や測定などについて正しい知識と技術を学び，得られた結果から個体または集団について分析する。				
行動目標	歩行などの身体の基本的な動作については，測定器機を用いた生体力学的アプローチと併せて，バイオメカニクスの観点から分析し，理解する。				
回数	講 義 内 容				
1	<p style="text-align: center;">実習オリエンテーション</p> <p>1. 筋力測定</p> <p>2. 循環機能</p> <p>3. 呼吸機能</p> <p>4. 感覚と知覚</p> <p>5. 生体観察</p> <p>6. 姿勢と歩行</p> <p>7. 体力テスト</p> <p>8. 筋電計とガス分析器操作</p>				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
教科書 及び 参考書	「基礎運動学 第7版」 医歯薬出版株式会社 「運動学実習手引き書」 配付				
教授方法	8グループによる、実技実習方式				
教材	運動学実習手引き書				
成績評価	レポート提出 100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	病理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	山下理子 清水真祐子 渡邊俊介 駒貴明 蔭山武志				
科目概要	<p>病理学は疾患の原因、病態、症状、経過、合併症、予後を含め、すべての疾患の実体を明らかにし疾患の治療のためにもっとも重要な基礎的及び実質的な事実を知る学問である。総論としてはできるだけ広汎に、各論においては理学・作業療法士が実際に接するであろう代表的な疾患について、できる限り具体的な事柄を詳しく教示する。</p> <p>病理学は実学であるので、総論、各論を含めできるだけ実例を紹介する。</p>				
回数	講義内容				
1	第1・2章	病理学の領域、細胞・組織とその障害	山下		
2	第3・4章	再生と修復、循環障害	清水		
3	第5・7章	炎症、感染症	駒		
4	第6章	免疫とアレルギー	駒		
5	第11・8章	先天異常、代謝異常	清水		
6	第14章	循環器	清水		
7	第15章	消化器	清水		
8	第12章	腫瘍	山下		
9	第17章	呼吸器	蔭山		
10	第18章	内分泌系	清水		
11	第21章・23章	生殖器、乳腺 運動器	渡邊		
12	第22章	脳・神経系	蔭山		
13	第19章	造血器系	山下		
14	第20章	腎・尿路系	渡邊		
15	第9・13・25章	老化と老年病・生命の危機、病理診断	渡邊		
教科書及び参考書	「カラーで学べる病理学 第5版」ニューヴェルヒロカワ				
教授方法	講義				
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					
講義の順序については変更することがある					

科目名	臨床心理学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	古川洋和				
科目概要	臨床心理学の基本的発想を理解する。 一般目標:医療従事者として必要な臨床心理学的発想を理解する。 行動目標:①臨床心理学的支援について説明できる。②代表的な臨床心理アセスメントについて説明できる。③代表的な心の健康問題について説明できる。				
回数	講義内容				
1	ライフサイクルと心の健康問題				
2	臨床心理アセスメント				
3	精神分析療法の基本的発想				
4	来談者中心療法の基本的発想				
5	行動療法の基本的発想				
6	認知行動療法の基本的発想				
7	発達障害の臨床心理学				
8	うつ病の臨床心理学				
9	統合失調症の臨床心理学				
10	認知症の臨床心理学				
11	不安症の臨床心理学				
12	依存症の臨床心理学				
13	強迫症の臨床心理学				
14	ストレスと健康				
15	定期試験の講評とまとめ				
教科書 及び 参考書	指定しない				
教授方法	講義				
教材	スライドならびに配布資料				
成績評価	各回における小テストならびに定期試験				
備考					
定期試験は、国家試験に準じた形式で出題します。					

科目名	一般臨床医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	上山 裕二 西村 明儒 八木 淑之 本藤 秀樹 浦野 芳夫 山本 恭代 斎藤 誠一郎 武田 美佐 島田 亜紀				
科目概要	身体に起こる種々の障害の把握とその対応の基礎的な事項について学習する。 病態生理と医学用語の解説、さらに救急救命、外科、脳外科、皮膚、泌尿生殖器、産婦人科、眼、耳鼻咽喉科の疾患に焦点をあて、教授する。				
回数	講義内容				
1	救急医学(心肺蘇生法、ショック、呼吸管理)			上山 裕二	
2	" (輸血、救急処置)				
3	病態生理・医学用語 (全身症状)			西村 明儒	
4	" (局所症状)				
5	" (局所症状)				
6	" (基礎医学)				
7	" (基礎医学)				
8	外科総論			八木 淑之	
9	脳外科			本藤 秀樹	
10	皮膚疾患			浦野 芳夫	
11	"				
12	泌尿・生殖器疾患			山本 恭代	
13	婦人科・産科疾患			斎藤 誠一郎	
14	眼疾患			武田 美佐	
15	耳鼻咽喉疾患			島田 亜紀	
教科書 及び 参考書	「PT・OTのための一般臨床医学 第4版」 医歯薬出版				
教授方法	口述、板書				
教材	プリント				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	木村 聡				
科目概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。 総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
回数	講義内容				
1	臨床医学総論・症状と臨床的意義				
2	症状と臨床的意義				
3	アレルギー疾患				
4	自己免疫性疾患、膠原病、免疫不全				
5	消化器疾患 : 食道疾患、胃・十二指腸疾患				
6	消化器疾患 : 腸・肝臓疾患				
7	消化器疾患 : 肝道・膵臓疾患				
8	血液・造血器疾患 : 赤血球・白血球系疾患				
9	血液・造血器疾患 : リンパ系疾患、血漿蛋白の異常、出血性疾患				
10	腎疾患 : 総論				
11	腎疾患 : 各論				
12	神経・筋疾患疾患 : 神経学的症状(所見とその意義)				
13	神経・筋疾患疾患 : 神経学的検査、神経系の疾患 1				
14	神経・筋疾患疾患 : 神経系の疾患 2				
15	神経・筋疾患疾患 : 神経系の疾患 3				
教科書 及び 参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第5版」 医学出版社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員					
科目概要	総合リハビリテーション医学を習得するためには、諸種疾患の概要に精通している必要がある。高齢化社会になりつつある今日においては、特に内科学全般の知識は必要不可欠のものである。代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
回数	講義内容				
1	感染症				
2	感染症				
3	循環器疾患				
4	循環器疾患				
5	循環器疾患				
6	循環器疾患				
7	呼吸器疾患				
8	呼吸器疾患				
9	呼吸器疾患				
10	内分泌疾患				
11	内分泌疾患				
12	代謝疾患				
13	腎・泌尿器疾患				
14	腎・泌尿器疾患				
15	環境要因に基づく疾患・中毒				
教科書 及び 参考書	「メディカルスタッフのための内科学 第5版」 医学出版社				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					

科目名	整形外科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松浦哲也				
科目概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
一般目標	<p>運動器の正常構造と機能を理解する。</p> <p>主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。</p> <p>問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。</p> <p>慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。</p> <p>四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。</p>				
行動目標	<p>運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。</p> <p>整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。</p> <p>各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。</p> <p>各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。</p>				
回数	講義内容				
1	整形外科学について、整形外科的診断学				
2	整形外科的治療法				
3	軟部組織損傷				
4	骨・関節の損傷総論				
5	肩関節および上腕				
6	肘関節および前腕				
7	手関節と手指				
8	股関節および大腿				
9	膝関節および下腿				
10	足関節と足部				
11	脊椎・脊髄①				
12	脊椎・脊髄②				
13	脊椎・脊髄③				
14	脊椎・脊髄④				
15	前期のまとめ				
教科書 及び 参考書	「整形外科学テキスト 改定第5版」 南江堂				
教授方法	講義・パワーポイント				
教材	教科書				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	整形外科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	松浦哲也				
科目概要	整形外科領域の外傷や疾患などの病態を学び、診断方法や治療方法を理解する。総論において症状の徴候のとらえ方から診断に到達するまでの過程を概説し、また、各論において代表的疾患の病態や治療法について、画像評価、臨床薬学についてもふれながら概説する。				
一般目標	<p>運動器の正常構造と機能を理解する。</p> <p>主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。</p> <p>問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく整形外科的疾患の診断方法の実際を身につける。</p> <p>慢性および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。</p> <p>四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を習得する。</p>				
行動目標	<p>運動器(骨・関節・筋・神経など)の解剖および生理を理解する。</p> <p>整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の内容を理解する。</p> <p>各種疾患(関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症等の診断と治療法)について専門知識に基づいた判断が出来る。</p> <p>各種外傷(四肢の外傷、脊椎の外傷、手の外科、末梢神経損傷等)について専門知識に基づいた判断が出来る。</p>				
回数	講義内容				
1	骨盤、慢性関節疾患				
2	関節リウマチとその類縁疾患				
3	感染症、代謝・内分泌疾患				
4	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症				
5	骨・軟部腫瘍				
6	神経疾患・筋疾患①				
7	神経疾患・筋疾患②				
8	神経疾患・筋疾患③				
9	骨系統疾患、骨壊死性疾患および骨端症				
10	四肢循環障害				
11	四肢切断および四肢欠損				
12	慢性疼痛疾患				
13	スポーツ整形外科				
14	パラスポーツ				
15	後期のまとめ				
教科書 及び 参考書	「整形外科学テキスト 改定第5版」 南江堂				
教授方法	講義・パワーポイント				
教材	教科書				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	神経内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	和泉唯信				
科目概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。				
回数	講義内容				
1	神経疾患の特徴とみかた				
2	〃				
3	中枢神経系の解剖と機能				
4	神経診察・脳神経				
5	意識障害・せん妄				
6	頭痛・めまい・失神				
7	運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮				
8	錐体外路徴候・姿勢異常・不随意運動				
9	運動失調・歩行障害				
10	感覚障害				
11	失語・失認・失行				
12	記憶障害・注意障害・実行機能障害				
13	構音障害・嚥下障害				
14	廃用症候群と誤用症候群				
15	脳神経外科領域疾患の代表的症候				
教科書 及び 参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 改訂第6版」 医学書院				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	神経内科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	和泉唯信				
科目概要	リハビリテーションに必要な神経系の症状・徴候のとらえ方、診断に到達するまでの過程、代表的疾患の病態や治療法について、臨床面から画像評価、臨床薬学についてもふれながら解説すると同時に、患者に接する基本的な態度についても教育する。				
回数	講義内容				
1	脳血管障害				
2	〃				
3	認知症				
4	〃				
5	パーキンソン病				
6	パーキンソン症候群				
7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症				
8	運動ニューロン疾患				
9	重症筋無力症				
10	多発性硬化症 視神経脊髄炎				
11	筋疾患				
12	末梢神経障害				
13	神経感染症				
14	脊髄疾患、外傷性脳損傷				
15	様々な神経疾患				
16	てんかん				
教科書 及び 参考書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版」医学書院				
教授方法					
教材					
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	精神医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	大蔵雅夫				
科目概要	精神医学は医学分野の中でも心の障害に関する学問である。身体医学との違いや、精神医学の発展について学んだ後に、様々な精神障害で出現する精神症状について詳細に学習する。さらに精神障害の診断に必要な検査や精神障害の治療方法について学んだ後、精神障害を器質性、機能的、反応性精神障害に分類した上で、代表的な精神障害の症状、診断、予後、臨床薬学を含む治療について学習する。				
回数	講義内容				
1	精神医学の理論と特徴				
2	精神医学と精神科医療の歴史				
3	精神症状(1)意識と記憶の障害				
4	精神症状(2)知覚と思考の障害				
5	精神症状(3)感情と意欲・行動の障害				
6	精神症状(4)脳の機能と高次脳機能障害				
7	精神科診断学(1)精神医学における診察法				
8	精神科診断学(2)画像検査と脳波検査				
9	精神科診断学(3)心理検査				
10	精神科治療学(1)薬物療法				
11	精神科治療学(2)身体療法				
12	精神科治療学(3)精神療法と心理社会的治療				
13	器質性精神障害の症状と治療				
14	機能的な精神障害の症状と治療				
15	反応性精神障害の症状と治療				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書					
教授方法	パワーポイントによる講義				
教材	その都度プリントを配布する				
成績評価	定期試験, 出席状況, レポート等を総合評価する				
備考					

科目名	精神医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	大蔵雅夫				
科目概要	前期に総論的に学んだ精神症状、検査、治療方法などを、個々の精神障害からの視点で再学習する。まず精神障害の発症メカニズムや分類方法について学んだ後、個々の精神障害(器質性精神障害、統合失調症、気分障害、神経症性障害、てんかんなど)の症状、治療、予後について詳細に学習する。				
回数	講義内容				
1	精神障害の国際分類と診断基準				
2	精神障害の発症に関する仮説				
3	器質性精神障害とその治療				
4	症状性精神障害とその治療				
5	器質性精神障害とその治療				
6	精神作用物質による精神障害とその治療(1)アルコール				
7	精神作用物質による精神障害とその治療(2)薬物				
8	統合失調症と妄想性障害とその治療				
9	気分障害とその治療				
10	神経症性障害とその治療				
11	生理的障害および身体要因に関連した行動症候群とその治療				
12	成人の人格および行動の障害とその治療				
13	てんかんとその治療				
14	児童期の精神障害とその治療				
15	老年期の精神障害とその治療				
16	定期試験				
教科書 及び 参考書					
教授方法	パワーポイントによる講義				
教材	その都度プリントを配布する				
成績評価	定期試験、出席状況、レポート等を総合評価する				
備考					

科目名	小児科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	竹内 峻亮				
科目概要	小児は成人と違い、その個体があらゆる面で成長発育の途上にある。小児の健康を守るためには、新生児、乳児期から思春期を経て成人に至るまでの幅広い対象に対する理解が必要である。小児に対する医療においても、成長の各段階にある患者の生理的、心理的特徴を十分理解した上で、先天的な疾患や、成長の過程のトラブルとして起こる、身体的、精神的疾患について幅広い知識をもつことが必要である。そこで、まず小児の成長、発達について概説し、つづいて小児期の主要な疾患、小児保健におけるトピックスなどについて解説する。				
回数	講義内容				
1	発達と発育				
2	生理				
3	栄養				
4	小児保健・事故・救急処置				
5	先天異常				
6	新生児疾患				
7	感染症・呼吸器疾患				
8	栄養・代謝性疾患				
9	内分泌疾患				
10	消化器疾患				
11	中枢神経・筋疾患				
12	血液疾患・固形腫瘍				
13	循環器疾患				
14	アレルギー・自己免疫疾患				
15	腎・泌尿器疾患				
教科書 及び 参考書	「最新育児小児病学 改訂第8版」 南江堂				
教授方法	講義				
教材					
成績評価	定期試験による				
備考					
講義開始時間を厳守すること					

科目名	老年学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	中谷 哲也				
科目概要	<p>高齢者ではさまざまな疾患が多発し、死亡率を高めるとともに、認知症、ADL(日常生活動作)低下など、要介護高齢者を増加させる。老年医学には単なる診断、治療だけでなく、ケア、リハビリテーション、終末期医療にいたるまでの多領域を包括するところに特徴がある。本講義では高齢者特有の疾患の病態や特徴、さらに生活機能障害の評価について臨床薬学、栄養学を交えて概説する。</p>				
回数	講義内容				
1	高齢者の定義と人口動態				
2	加齢に伴う生理機能の変化				
3	〃 運動機能の変化				
4	〃 精神心理面の変化				
5	高齢者の生活機能の評価、ケア、リハビリテーション				
6	〃				
7	老齡症候群				
8	〃				
9	高齢者特有の疾患(感染症)				
10	〃 (循環器、呼吸器)				
11	〃				
12	〃 (消化器、内分泌、血液、免疫)				
13	〃 (精神神経、骨・運動器)				
14	〃 (腎・泌尿器、皮膚、口腔)				
15	〃 (耳鼻咽喉、眼)				
教科書 及び 参考書	「老年学 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 第6版」 医学書院				
教授方法	口述、板書				
教材	プリント				
成績評価	定期試験				
備考					

科目名	リハビリテーション医学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	江西 哲也				
科目概要	理学療法士、作業療法士になるために必要なリハビリテーション医学・医療の基本的な知識並びに考え方を学び、障害を診る心を育て、人々の生活機能の回復・向上に対応する医療・福祉を学ぶ。				
回数	講義内容				
1	リハビリテーション医学・医療の成り立ち、理念、障害学				
2	リハビリテーション医療の急性期・回復期・維持期 保健・医療・福祉の連携				
3	リハビリテーション診療の手順、画像診断、電気生理、ADL				
4	治療手技のあらし、リハ工学				
5	廃用による障害、加齢による障害、発達障害				
6	中枢神経系による運動障害、歩行障害				
7	循環機能障害、呼吸障害				
8	摂食・嚥下障害、排泄障害、褥瘡				
9	高次脳機能障害(失行・失認、言語障害、認知症)のリハ				
10	脳血管障害、頭部外傷のリハ				
11	脊髄損傷のリハ、切断と義手・義足				
12	運動器(RA)疾患のリハ、疼痛のリハ				
13	外傷のリハ、脳性麻痺・筋ジストロフィーのリハ				
14	内部障害・精神障害・悪性腫瘍のリハ				
15	リハビリテーション心理と障害受容 臨床現場での心構え				
教科書 及び 参考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版 2005				
教授方法	パワーポイント使用				
教材	プリント配付				
成績評価	定期試験				
備考					

理学療法専門分野 1 学年

科目名	基礎理学療法学 I	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	出口 純次 (理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	理学療法士に関連した関係法規と制度の基礎知識や基礎理論について学ぶとともに、役割などを理解する。				
一般目標	理学療法士の制度や役割などについて学習する。				
行動目標	理学療法士に関する法律や制度、活動領域などについて述べることができる。				
回数	講義内容				
1	理学療法とは				
2	理学療法士と障害を取り巻く歴史				
3	理学療法とリハビリテーション				
4	理学療法士の資質と適正				
5	理学療法士の組織と活動				
6	車いす操作・障がい者スポーツ				
7	車いすバスケット体験				
8	バリアフリー、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、自立運動				
9	パラスポーツ大会の概要				
10	パラスポーツに関する施策				
11	教育課程における臨床実習				
12	理学療法士の安全管理				
13	クリニカルパス、インフォームドコンセント、理学療法士の活動領域				
14	理学療法士教育・研究				
15	理学療法の動向と今後の展望				
教科書 及び 参考書	知識・技術・学習力が身につく 3ステップで学ぶ理学療法スタートブック(ヒューマンプレス)				
教授方法	講義				
教材	教科書・配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	基礎理学療法学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	理学療法学の基礎となる語句・身体の各部名称・運動方向・ランドマークなどの触診について教授する				
一般目標	理学療法の基礎となる身体の名称・運動方向・触診について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部の名称が言える ・関節の運動方向について説明・実技が出来る ・触診部位について説明・実技が出来る 				
回数	講義内容				
1	解剖学的方向と位置関係①				
2	解剖学的方向と位置関係②				
3	解剖学的人体の各部名称について①				
4	解剖学的人体の各部名称について②				
5	解剖学的人体の各部名称について③				
6	人体の姿勢と肢位の表現について				
7	関節運動方向 上肢				
8	関節運動方向 下肢				
9	関節運動方向 頸部・体幹				
10	ランドマーク触診 上肢①				
11	ランドマーク触診 上肢②				
12	ランドマーク触診 上肢③				
13	ランドマーク触診 下肢①				
14	ランドマーク触診 下肢②				
15	ランドマーク触診 下肢③				
教科書 及び 参考書	カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法 PT・OT・STのための解剖学 基礎運動学				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・参考書・プリント・骨標本・人体				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学 I	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)				
科目概要	理学療法の概念を理解し、評価の技術・技能を修得する。				
一般目標	理学療法における評価の意義を理解するとともに、代表的評価法や評価尺度について理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法における評価の目的とポイントを理解する。 ・理学療法評価における観察の意義を理解する。 ・疾患や病態に応じた必要な医学的情報を選択し、患者の全身状態を把握できる。 ・姿勢検査と形態計測の意義、基本的な項目と方法、手順について理解する。 ・各関節における関節可動域測定について理解する。 				
回数	講義内容				
1	評価の目的とプロセスの概要				
2	評価の目的とプロセスの概要				
3	身体のランドマーク(触診含む)				
4	形態測定と姿勢の評価				
5	形態測定と姿勢の評価				
6	形態測定と姿勢の評価、関節可動域の測定(概論)				
7	関節可動域の測定				
8	関節可動域の測定				
9	関節可動域の測定				
10	関節可動域の測定				
11	関節可動域の測定				
12	関節可動域の測定				
13	関節可動域の測定				
14	関節可動域の測定				
15	身体の変形、関節運動学(構成運動、副運動)				
教科書 及び 参考書	最新理学療法講座 理学療法評価学(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書、配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学 I	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	理学療法の様々な疾患に対する診かたや理学療法の考え方の基礎を中心に確認していく				
一般目標	基礎知識の確認・評価・目標等について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 筋力検査の目的・内容を理解できる 筋の起始・停止・神経支配・作用等を述べる事が出来る 各検査が正確に行う事が出来る 				
回数	講義内容				
1	筋力測定(MMT)の原理について				
2	MMTとGMT				
3	徒手筋力テストを行うためのテクニック				
4	上肢MMT 肩甲帯に係るテストについて				
5	上肢MMT 肩甲帯に係るテストについて				
6	上肢MMT 肩関節に係るテストについて				
7	上肢MMT 肩関節に係るテストについて				
8	上肢MMT 肘関節に係るテストについて				
9	上肢MMT 手関節に係るテストについて				
10	下肢MMT 股関節に係るテストについて				
11	下肢MMT 股関節に係るテストについて				
12	下肢MMT 股関節に係るテストについて				
13	下肢MMT 膝関節に係るテストについて				
14	下肢MMT 足関節に係るテストについて				
15	徒手筋力テストの限界について				
教科書 及び 参考書	新・徒手筋力検査法 第10版 (株)協同医書出版社				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書				
成績評価	成績評価100点満点中60点以上が合格点である。 100点満点で、定期試験50点、実技試験が50点の割合で評価する。				
配点割合	定期試験50%・筆記試験50%				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学 I	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	運動療法の概念、ならびに各種の運動療法についての基本的知識と運動原理についてこれを教授する。また、運動療法の基礎となる解剖・生理・運動学の知識についてこれを教授する。				
一般目標	運動療法の原理、基本的運動療法の技術とそれを支える解剖・生理・運動学の知識について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法の概念が説明できる。 ・運動療法を行う上で必要となる解剖・生理・運動学の知識が説明できる。 ・運動を制御し学習するメカニズムを解剖・生理・運動学の知識を用いて説明できる。 ・筋力増強訓練と持久力訓練の理論を解剖・生理・運動学の知識を用いて説明できる。 ・運動器と神経系の病態生理について説明できる。 				
回数	講義内容				
1	運動と運動療法・理学療法のなかの運動療法				
2	関節の構造と運動(関節の分類、滑膜性関節の構造、関節の機能)				
3	関節の構造と運動(関節の運動様式、関節と筋収縮、関節運動の制限)				
4	筋と筋収縮(骨格筋の構造、筋収縮のエネルギー)				
5	筋と筋収縮(張力からみた収縮特性)				
6	運動の種類				
7	基本的な運動療法(関節可動域訓練)				
8	基本的な運動療法(筋力増強訓練)				
9	基本的な運動療法(持久力訓練)				
10	基本的な運動療法(協調性運動)				
11	基本的な運動療法(バランス訓練)				
12	運動制御				
13	運動学習				
14	マッサージとリラクゼーション				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第5版				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	物理療法学 I	単位数	1単位 30 時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	理学療法における物理療法の位置づけ、ならびに物理療法の種類や作用機序・原理について学習する				
一般目標	物理療法における生理学・主な病態を理解し、適応と禁忌の生理学的背景からより、効果的な治療法が考慮できるよう学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物理療法の歴史や概念を理解する ・物理療法の為の生理学について理解し、概要を理解することが出来る ・物理療法の適応となる主な病態について理解するとともに適応と近畿及びリスク管理についても理解する 				
回数	講義内容				
1	物理療法の歴史・定義・体系・治療目的による分類				
2	物理療法のための生理学:皮膚・体温①				
3	物理療法のための生理学:皮膚・体温②				
4	物理療法のための生理学:皮膚・体温③				
5	物理療法のための生理学:筋①				
6	物理療法のための生理学:筋②				
7	物理療法のための生理学:神経①				
8	物理療法のための生理学:神経②				
9	物理療法のための生理学:温熱の効果①				
10	物理療法のための生理学:温熱の効果②				
11	物理療法のための生理学:寒冷・水の効果①				
12	物理療法のための生理学:寒冷・水の効果②				
13	主な病態の理解:炎症・浮腫				
14	主な病態の理解:疼痛				
15	物理療法の効果と適応・禁忌とリスク管理				
教科書 及び 参考書	PTOTビジュアルテキスト 物理療法 基礎看護学講座 解剖生理学				
教授方法	講義				
教材	教科書・参考書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	義肢装具学 I	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	出口 純次 (理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	装具療法の対象となる障がいや疾患、下肢装具の構造や機能、適応について学習する。				
一般目標	下肢装具の構造・機能・適応の理解				
行動目標	装具の目的を理解する。 下肢装具の構造・機能・適応を理解する。				
回数	講義内容				
1	装具総論:歩行周期				
2	下肢装具総論				
3	下肢装具の種類と名称				
4	下肢装具の部品とその機能				
5	短下肢装具の構造と機能				
6	短下肢装具の種類:適応				
7	長下肢装具の構造と機能				
8	長下肢装具の種類:適応				
9	膝装具の構造と機能				
10	膝装具の種類:適応				
11	股装具				
12	小児の装具				
13	靴型装具				
14	足装具				
15	適合判定				
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)				
教授方法	講義 ・ 実習				
教材	教科書・配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害対応生活環境論	単位数	1単位 30時間	開講年次	1学年 前期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	障がい者の自立をADLと各種の福祉機器を含む生活環境整備から捉え、さらに社会的、経済的な面にまで深める。また基本的な起居移動動作の指導及び各種移動補助具の構造と使用法を教授する。				
一般目標	障がい者が自立できる生活環境を考える上での基礎知識を教授する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL、生活環境学の概念が説明できる。 ・杖、歩行器などの移動補助具の種類が説明でき、歩行の介助と指導が安全にできる。 ・車いすの種類が説明でき、走行の介助と指導が安全にできる。 ・移乗動作の指導と介助が安全に実施できる。 ・車いす、杖を使用する生活に適応した住環境について説明できる。 				
回数	講義内容				
1	ADLの概念と範囲、ADLと障害、ADLとQOL				
2	物理環境整備とADL				
3	杖の種類と歩行の指導法				
4	歩行器の種類と歩行の指導法				
5	車いすの基本的知識と種類				
6	車いすの走行 自走方法の指導				
7	車いすの走行 介助方法				
8	起居動作① 寝返り				
9	起居動作② 起き上がり				
10	移乗動作① 車いす→ベッド				
11	移乗動作② ベッド→車いす				
12	起居・移乗動作 まとめ				
13	生活環境学の概念・諸制度				
14	生活環境の評価と改善計画				
15	住宅と住宅改修				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	見学実習	単位数	2単位 80 時間	開講年次	1学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験 7 年)・松田寛子(理学療法士として実務経験 5 年) 村上和広(理学療法士として実務経験 5 年)・向島 充(理学療法士として実務経験 6 年) 芳野一也(理学療法士として実務経験 6 年)・出口純次(理学療法士として実務経験 7 年)				
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年後期に配置した臨床実習をいう。基本時間を80 時間とし、これを2期に分け実施する。実習期間中に通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの経験を40時間以上積むこととする。 ・理学療法士が係わる事業の体系や目的、理学療法士の役割や業務の概要を理解するとともに、指導理学療法士の下に主要な理学療法対象疾患や障害像を捉える。 ・医療従事者としての基本的マナーを体験するとともにこれを理解する。 				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・指導理学療法士やスタッフ、職員、並びに理学療法対象者の方々に対して、常に誠意を待って対応するとともに、実習学生として相応しい態度や挨拶、言葉使い等による適切な接遇ができる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組み、疑問(問題)解決に努め、指導理学療法士の指導の下で、各自が下記の目標の達成を目指すとともに、今後の学習への意欲を高めることができる。 				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、施設あるいは理学療法士が係わる事業の体系や目的を理解する。 ・理学療法士の役割、業務、分担等を理解する。 ・理学療法士と係わる他の医療関連職種について、その役割、分担、専門内容の概要を理解する。 ・理学療法士による対象者に対する治療や評価などを観察し、その意義を学ぶ。 ・主な理学療法対象疾患や障害についての特徴的な臨床像の概要を把握する。 ・対象者との良好な関係を構築できる。 				
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 : 第7章 評価基準(臨床実習の評価) 第55条による。				
備考					
実習基本時間： <ul style="list-style-type: none"> ・1日の基本時間は8時間とする。 ・月～金の平日を実習実施日とする。 ・土曜日は調整日とする。 ・日曜日、祝祭日は原則として休日とする。 ・各期の総時間外学習時間は5時間を超えないものとする。 課題： <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表 ・臨床実習チェックシート ・感想文 実習に際する留意点など： <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 					

理学療法専門分野 2 学年

科目名	病態運動学	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	運動学により修得した人体構造における基礎的知識と技術を臨床的に展開し、運動器疾患や障害の病態を知る。又、病態や障害が運動に与える影響を把握し、問題点の理解ができるようになる。				
一般目標	基礎運動学をさらに進め、病態(障害)時の運動を分析するとともに、問題解決の手法や代償の手段を学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動分析の手法について説明できる ・目的に応じた適切な運動分析手法を選択できる ・運動分析により対象者の運動の特徴を理解するとともに、他の評価からのデータを統合する事が出来る ・病態や障害による運動の特性を理解し、運動療法的アプローチに活用できる 				
回数	講義内容				
1	病態運動学の概念について				
2	起立姿勢について				
3	起立姿勢保持のための講中料金の働きと重要度について				
4	成長に伴う姿勢の変化				
5	歩行について:歩行とそうこうの定義				
6	歩行について:歩行周期の表現と理解				
7	歩行について:立脚相と遊脚相				
8	歩行について:重心移動について				
9	歩行について:下肢の関節角度の変化について				
10	歩行について:筋活動と特徴				
11	歩行について:上肢の運動				
12	歩行について:小児・高齢者の歩行の特徴				
13	起立姿勢と歩行障害:病態について				
14	起立姿勢と歩行障害:歩行障害の分類と特徴				
15	歩行の臨床的評価について				
教科書 及び 参考書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 臨床運動学 第3版 医歯薬出版				
教授方法	講義				
教材	プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
	備考				
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	病態運動学	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)				
科目概要	人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能と臨床上の問題を軸に学習する。				
一般目標	関節運動、動作分析、異常歩行、病態とエネルギー消費、筋活動と筋張力について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動について理解をする。 ・運動分析により運動の特徴を理解するとともに、評価データを統合することができる。 ・動作分析により運動の異常を観察して、その異常な運動を分析および記録することができる。 ・筋の生理について理解し、筋活動時における変化や反応、および要因について述べることができる。 				
回数	講義内容				
1	関節の構造と機能、関節の感覚				
2	関節の正常、関節の異常				
3	関節可動性の異常				
4	可動域の制限、関節拘縮、関節強直				
5	歩行障害、歩容について(一般的所見、特殊所見)、異常歩行の診かた				
6	歩行障害、歩容について(一般的所見、特殊所見)、異常歩行の診かた				
7	異常歩行の原因、疼痛による異常歩行、筋疾患による異常歩行				
8	中枢神経疾患による異常歩行				
9	病態とエネルギー消費、運動負荷				
10	筋活動と筋張力(筋の構造、筋の機能、筋電図)				
11	筋活動と緊張力(筋の障害、筋トレーニング)				
12	Case-Based Learning(脳血管障害:回復期)				
13	Case-Based Learning(脳血管障害:回復期)				
14	Case-Based Learning(脳血管障害:生活期)				
15	Case-Based Learning(脳血管障害:生活期)				
教科書 及び 参考書	臨床運動学 第3版(医歯薬出版株式会社) 必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義				
教材	教科書、配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅱ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解しその検査測定を学習する				
一般目標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する 運動の方法・種類を理解し、症状に合わせて選択する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科領域の疾患を理解する ・その疾患に必要な肩鎖測定項目の選択・目的を述べ、さらに実施することが出来る ・疾患における画像等を使用し傷害部位の確認が出来る 				
回数	講義内容				
1	整形外科的検査 実技 総論				
2	整形外科的検査 実技 肩関節①				
3	整形外科的検査 実技 肩関節②				
4	整形外科的検査 実技 肘・手関節				
5	整形外科的検査 実技 腰部・股関節				
6	整形外科的検査 実技 膝関節①				
7	整形外科的検査 実技 膝関節②				
8	整形外科的検査 実技 足関節				
9	整形外科的検査 実技 頸部・体幹①				
10	整形外科的検査 実技 頸部・体幹②				
11	整形外科領域の運動の種類と方法の選択①				
12	整形外科領域の運動の種類と方法の選択②				
13	整形外科領域の運動の種類と方法の選択③				
14	整形外科疾患 骨折・脱臼 総論① 解剖と生理 骨発生の理解				
15	整形外科疾患 骨折・脱臼 総論② 受傷起点と種類(画像確認含)				
教科書 及び 参考書	最新理学療法学講座 理学療法評価学 標準理学療法学 運動療法学(総論・各論) 整形外科学テキスト				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・参考書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅱ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解しその検査測定を学習する				
一般目標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科領域の疾患を理解する ・その疾患に必要な肩鎖測定項目の選択・目的を述べ、さらに実施することが出来る ・各症状、目的に合わせた運動方法の選択について理解する 				
回数	講義内容				
1	骨折・脱臼 各論(画像評価含) 上肢				
2	骨折・脱臼 各論(画像評価含) 下肢①				
3	骨折・脱臼 各論(画像評価含) 下肢②				
4	変形性関節症 総論(解剖学運動学の基礎)(画像の診かた・評価含)				
5	変形性膝関節症 (画像の診かた・評価含)				
6	変形性膝関節症 治療の実際				
7	変形性股関節症 (画像の診かた・評価含)				
8	変形性股関節症 治療の実際				
9	スポーツ外傷・障害 総論				
10	スポーツ外傷・障害 膝関節(画像の診かた・評価含)				
11	スポーツ外傷・障害 膝関節の治療				
12	スポーツ外傷・障害 足関節(画像の診かた・評価含)				
13	スポーツ外傷・障害 足関節の治療				
14	ストレッチング 講義 生理学的理解				
15	ストレッチング 講義 種類と方法について				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学(総論・各論) 整形外科学テキスト				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・参考書・プリント・骨標本				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅲ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	出口 純次 (理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	的確な、かつ正確な理学療法を施行するためには、障害を正しく評価することができる。評価の意義を理解し、正しく施行できるように学習する。				
一般目標	理学療法領域で必要な各種の検査、測定を軸に学習する。				
行動目標	各種反射を理解し、正しく施行できる。高次脳機能障害の評価について説明できる。運動麻痺の回復段階を理解し、評価することができる。各検査の意義を理解し、述べることができる。脳神経について理解し、評価することができる。				
回数	講義内容				
1	反射の診かた(腱反射、表在反射)				
2	反射の診かた(実技)				
3	反射の診かた(病的反射)				
4	反射の診かた(実技)				
5	疼痛検査、筋緊張検査				
6	脳神経の診かた				
7	片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test)				
8	片麻痺運動機能検査(Fugl Meyer Assessment, Stroke Impairment Assessment Set)				
9	片麻痺運動機能検査(実技)				
10	バランス機能検査				
11	バランス機能検査(実技)				
12	持久力検査				
13	持久力検査(実技)				
14	歩行の診かた				
15	歩行の診かた(実技)				
教科書 及び 参考書	配布資料 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 最新理学療法学講座 理学療法評価学(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義、実技				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅲ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)				
科目概要	生活習慣病と関わりの深い呼吸、循環(末梢循環)、代謝系の評価の意義と流れについて学習する。				
一般目標	呼吸、末梢循環、代謝機能について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の生理学について理解し、評価に繋げることができる。 ・呼吸器障害を有する患者の身体的変化について述べることができる。 ・末梢循環障害の病態および評価について理解する。 ・糖尿病について理解する。 ・呼吸、末梢循環における画像情報の評価について理解する。 				
回数	講義内容				
1	呼吸器系の基本構造と弾性的性質				
2	肺における換気とガス交換				
3	呼吸中枢と呼吸調節				
4	呼吸の身体診察:診察の進め方、正常呼吸と異常呼吸、胸郭の変形、聴診法				
5	呼吸の身体診察:主要徴候(呼吸困難、咳・痰、喘鳴、チアノーゼ)				
6	呼吸の身体診察:主要徴候(胸痛、体重増減、樽状胸、ばち状指)				
7	呼吸機能検査:肺気量分画、フローボリューム曲線、換気機能障害の分類				
8	呼吸機能検査:肺気量分画、フローボリューム曲線、換気機能障害の分類				
9	排痰法、体位肺痰法のポジション、画像情報の評価				
10	糖尿病とは(タイプ、合併症、コントロール基準など)				
11	肥満と糖尿病、糖負荷試験				
12	糖尿病の理学療法評価(問診、観察、消費エネルギー、運動機能、再評価など)				
13	糖尿病の理学療法評価(問診、観察、消費エネルギー、運動機能、再評価など)				
14	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓性血管炎、深部静脈血栓症について(病態、評価など)				
15	閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓性血管炎、深部静脈血栓症について、画像情報の評価				
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義				
教材	配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
	備考				
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅳ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	理学療法領域で必要な検査測定方法を学習する。				
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価方法を身につける。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての基礎知識を確認する。 ・各評価についての基礎知識を確認する。 ・知識と技術の統合を図る。 				
回数	講義内容				
1	感覚の種類・伝導路				
2	感覚障害				
3	感覚検査:意義、目的				
4	感覚検査:表在感覚				
5	感覚検査:深部感覚・複合感覚				
6	徒手筋力テスト:頭・頸部				
7	徒手筋力テスト:頭・頸部				
8	徒手筋力テスト:体幹				
9	徒手筋力テスト:体幹				
10	徒手筋力テスト:手指の解剖・運動学				
11	徒手筋力テスト:手指				
12	徒手筋力テスト:手指				
13	動作の見方				
14	動作分析:正常動作の観察				
15	動作分析:正常動作の観察と分析				
教科書 及び 参考書	理学療法評価法 第3版 神陵文庫 新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	理学療法評価学Ⅳ	単位数	2単位 30時間/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	理学療法領域で必要な検査測定方法を学習する。				
一般目標	基礎知識を確認し、基本的な評価方法を身につける。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての基礎知識を確認する。 ・各評価についての基礎知識を確認する。 ・知識と技術の統合を図る。 				
回数	講義内容				
1	動作分析の実際				
2	動作分析:疾患・症状別:股関節疾患				
3	動作分析:疾患・症状別:膝関節疾患				
4	動作分析:疾患・症状別:膝関節疾患				
5	動作分析:疾患・症状別:脳血管疾患				
6	動作分析:疾患・症状別:脳血管疾患				
7	正常発達				
8	発達検査				
9	発達検査の実際				
10	脳性麻痺				
11	脳性麻痺の評価				
12	脳性麻痺の運動療法:痙直型				
13	脳性麻痺の運動療法:アテトーゼ型				
14	二分脊椎の評価				
15	二分脊椎の理学療法				
教科書 及び 参考書	理学療法評価学 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 運動療法学各論 医学書院				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
	備考				
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)				
科目概要	理学療法における運動療法の位置づけ並びに、各種の運動療法についての基礎知識と技術を学習する。				
一般目標	脳血管障害に対しての適切な運動療法を選択および統合し、これを実施し得るよう学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の分類とそれぞれの病態の概要を理解する。 ・片麻痺の運動障害の特徴を述べることができる。 ・高次脳機能障害の概略および評価法について理解する。 ・脳神経検査の概略および評価法について理解する。 ・脳血管障害に対する評価の診かた、考え方について説明できる。 				
回数	講義内容				
1	脳卒中に対する理学療法(介入のための基礎知識)				
2	脳卒中に対する理学療法(介入のための基礎知識)				
3	脳卒中に対する理学療法(介入のための基礎知識)				
4	高次脳機能障害と理学療法				
5	高次脳機能障害と理学療法				
6	高次脳機能障害と理学療法				
7	高次脳機能障害と理学療法				
8	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴				
9	脳血管障害後片麻痺に対する評価				
10	脳血管障害後片麻痺に対する評価				
11	脳血管障害後片麻痺患者に対する運動療法				
12	脳血管障害後片麻痺患者に対する運動療法				
13	脳血管障害後片麻痺患者に対する運動療法				
14	脳病巣の局在診断、脳出血部位の鑑別診断、脳血管閉塞部位と臨床徴候				
15	脳血管障害における理学療法の実際				
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)				
教授方法	講義				
教材	配布資料、教科書				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学Ⅲ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	末梢神経障害・高齢者の運動療法を提示し、関節可動域・筋力増強等各種運動療法手技・方法などについて学習する。また、QOLについても学習する				
一般目標	末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法、高齢者の運動療法、QOLについて学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経障害の疾患の理解・評価・運動療法について述べる事が出来る ・高齢者の運動療法について述べる事が出来る ・QOLについて述べる事が出来る 				
回数	講義内容				
1	末梢神経障害の基礎知識(末梢神経の解剖・神経繊維の分類)				
2	上記同様				
3	末梢神経障害 総論(末梢神経障害の原因・分類)				
4	末梢神経障害 総論(末梢神経障害の臨床症状)				
5	末梢神経障害 総論(再生・治療方法)				
6	末梢神経障害 各論(腕神経叢麻痺)				
7	末梢神経障害 各論(橈骨神経麻痺)				
8	末梢神経障害 各論(正中神経麻痺)				
9	末梢神経障害 各論(尺骨神経麻痺)				
10	末梢神経障害 各論(総腓骨神経麻痺)				
11	末梢神経障害 各論(脛骨神経麻痺)				
12	末梢神経障害 各論(絞扼性神経麻痺)				
13	高齢者の運動療法について				
14	QOLについて				
15	まとめ				
教科書 及び 参考書	運動療法学(各論):医学書院 解剖学:医学書院				
教授方法	講義				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学Ⅳ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	脊椎・脊髄疾患について理解する。 筋力増強訓練等の各種運動療法手技、技術、方法について実習する。また、主要な疾患に対する運動療法を提示し、これを実習する。				
一般目標	脊椎・脊髄疾患を理解する。 また筋力増強訓練などの方法を理解し、実施する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎・脊髄疾患の病態、治療法の概要を述べることができる。 ・脊椎・脊髄疾患に対するリハビリテーションの概要を述べることができる。 ・脊椎・脊髄損傷に対するADL指導、補装具、家屋構造などを説明できる。 ・筋力増強訓練などの基本的な技術を習得し、模擬患者に対して実施できる。 				
回数	講義内容				
1	脊髄損傷の病態、病態生理、神経学的評価、				
2	高位評価、横断的局在評価				
3	脊髄疾患について				
4	排尿障害と排便障害、自律神経障害				
5	疫学、麻痺型、機能分類、評価法				
6	合併症				
7	急性期① ポジショニング、ROMエクササイズ				
8	急性期② 筋力増強訓練、姿勢保持				
9	回復期① ROMエクササイズ、筋力増強訓練、バランス訓練				
10	回復期② 移乗動作				
11	回復期③ 歩行				
12	回復期④ ADL				
13	筋力増強訓練① 上肢				
14	筋力増強訓練② 下肢				
15	筋力増強訓練③ 体幹				
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配布				
教授方法	講義・実習				
教材	プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	運動療法学Ⅴ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	出口 純次（理学療法士として実務経験7年）				
科目概要	関節リウマチ(RA)、神経筋疾患について理解する。また、主要な疾患に対する運動療法を提示できる。				
一般目標	RA、神経筋疾患を理解する。また関節可動域練習などの方法を理解し、実施する。				
行動目標	RA、神経筋疾患の病態、治療法、リハビリテーションの概要を述べるができる。RA、神経筋疾患に対するADL指導、補装具、家屋構造などを説RA、神経筋疾患の病態、治療法、リハビリテーションの概要を述べるができる。RA、神経筋疾患に対するADL指導、補装具、家屋構造などを説明できる。関節可動域訓練などの基本的な技術を習得し、模擬患者に対して実施できる。				
回数	講義内容				
1	RAの病態、特徴、症状、治療、経過				
2	RAの評価、ADL				
3	RAの評価、運動療法、ADL				
4	筋萎縮性側索硬化症の病態、特徴、症状、治療、経過				
5	筋萎縮性側索硬化症の評価、ADL				
6	筋萎縮性側索硬化症の運動療法				
7	多発性硬化症の病態、特徴、症状、治療、経過				
8	多発性硬化症の評価、ADL				
9	多発性硬化症の運動療法				
10	ギランバレー症候群の病態、特徴、症状、治療、経過				
11	ギランバレー症候群の評価、ADL、運動療法				
12	重症筋無力症の病態、特徴、症状、治療、経過				
13	重症筋無力症の評価、ADL、運動療法				
14	多発性筋炎、皮膚筋炎の病態、特徴、症状、治療、経過				
15	多発性筋炎、皮膚筋炎の評価、運動療法、ADL				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学総論(医学書院) 標準理学療法学 運動療法学各論(医学書院)				
教授方法	講義				
教材	教科書・配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	物理療法学Ⅱ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	物理療法分野における熱の生理学と温熱・光線療法等について学習する				
一般目標	熱・電磁波の基礎、生体への影響について学習する 実際の機器の使用法、管理について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・熱の生理学、伝達方法について理解する ・温熱、光線、電磁波が生体に与える影響、効果について説明できる ・各治療時のリスク管理について説明し、安全な使用法について説明と実施ができる 				
回数	講義内容				
1	温熱療法 総論 生理学①				
2	温熱療法 総論 生理学②				
3	温熱療法 総論 生理学③				
4	温熱療法 各論 ホットパック				
5	温熱療法 各論 パラフィン				
6	光線療法 総論				
7	光線療法 各論 紫外線療法				
8	光線療法 各論 赤外線療法				
9	光線療法 各論 レーザー光線療法①				
10	光線療法 各論 レーザー光線療法②				
11	温熱療法 各論 極超短波療法①				
12	温熱療法 各論 極超短波療法②・超短波療法				
13	温熱療法 各論 超音波療法①				
14	温熱療法 各論 超音波療法②				
15	温熱療法治療の実技				
教科書 及び 参考書	PTOTビジュアルテキスト 物理療法				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・プリント・物理療法機器				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	物理療法学Ⅱ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	物理療法分野における寒冷・水・牽引・振動・電気療法等について学習する				
一般目標	寒熱・水・牽引・振動・電気・バイオフィードバックの基礎、生体への影響について学習する 実際の機器の使用法、管理について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷、水、牽引、振動、電気が生体に与える影響、効果について説明できる ・各治療時のリスク管理について説明し、安全な使用法について説明と実施ができる 				
回数	講義内容				
1	寒冷療法 総論 寒熱における生体への影響①				
2	寒冷療法 各論①				
3	水治療法 総論 水が生体に及ぼす影響について①				
4	水治療法 各論①				
5	牽引療法 生理学と総論				
6	牽引療法 各論 頸椎牽引				
7	牽引療法 各論 腰椎牽引				
8	電気療法 総論 通電とは、周波数による分類の理解、刺激時間とその頻度				
9	電気療法 各論 TENSについて				
10	電気療法 各論 NMESについて				
11	電気療法 各論 TESについて				
12	電気療法 各論 FESについて				
13	バイオフィードバック療法 定義、種類と適応疾患について				
14	振動刺激療法 生理学と総論				
15	物理療法危機を用いての実技演習				
教科書 及び 参考書	PTOTビジュアルテキスト 物理療法				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・プリント・物理療法機器				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害対応生活技術論	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	出口 純次 (理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	障害者のADLにおいて適切な評価・指導が行えるよう教授する。また、各疾患の病態や障害像に適応した基本的動作のバイオメカニクスについての知識と技能を教授する。				
一般目標	ADL評価とADL指導に必要な基本的な知識と技術を学習する。				
行動目標	ADL評価法について説明できる。動作分析ができる。各疾患の病態や障害像に応じた基本動作・複合動作の指導と介助ができる。				
回数	講義内容				
1	ADLの概念と範囲				
2	ADL評価の目的				
3	各種ADL評価法①				
4	各種ADL評価法②				
5	ADL評価法の実際				
6	バイオメカニクスの基本				
7	姿勢観察, 姿勢分析				
8	基本動作 立ち上がり				
9	基本動作 立ち上がり				
10	基本動作 寝返り				
11	基本動作 寝返り				
12	基本動作 起き上がり				
13	基本動作 起き上がり				
14	障害像に応じた起居・移動・移乗動作				
15	障害像に応じた起居・移動・移乗動作				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(医学書院)				
教授方法	講義				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	障害対応生活技術論	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)				
科目概要	ADL障害とその指導法について教授する。また、QOLから考える目標設定や社会資源の活用まで含めた広い意味での物理環境アプローチについて教授する。				
一般目標	ADL障害とQOLを視野に入れた目標設定やADL訓練を学ぶ。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> •ADL評価を含めた各評価結果の統合と解釈ができる。 •ADL障害を理解し適切な目標設定と治療プログラムの立案ができる。 				
回数	講義内容				
1	脳卒中による機能障害の特徴				
2	脳卒中のADL評価とプログラム作成				
3	脳卒中のADL指導時の留意点				
4	脳卒中のADL指導の実際				
5	脳卒中のADL指導の実際				
6	脳卒中の生活関連動作				
7	problem based learning(脳血管障害回復期軽症例)				
8	problem based learning(脳血管障害回復期軽症例)				
9	problem based learning(脳血管障害回復期重度片麻痺)				
10	problem based learning(脳血管障害回復期重度片麻痺)				
11	高齢者の特徴				
12	廃用症候群・高齢者の転倒予防				
13	呼吸器疾患・循環器疾患・糖尿病のADL				
14	呼吸器疾患・循環器疾患・糖尿病のADL				
15	その他の障害のADL(ストーマ・血友病・五感障害)				
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義				
教材	配布資料、教科書				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	義肢装具学Ⅱ	単位数	1単位30 時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)・小谷和男(義肢装具士)				
科目概要	装具療法について、対象となる疾患や障害、又適応となる装具の構造・機能・適用などについて学習する				
一般目標	上肢装具・体幹装具について、構造・機能・適用を学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢装具の構造・適応について述べる事が出来る ・体幹装具の構造・適応について述べる事が出来る ・各装具のチェックアウトや適正症状について述べる事が出来る 				
回数	講義内容				
1	上肢の解剖・運動学総論				向島 充
2	上肢装具の目的・原則				向島 充
3	上肢装具の適合性に関するポイント				向島 充
4	上肢装具の基本的分類 ～指・手部・手関節装具～				向島 充
5	上肢装具の基本的分類 ～対立・把持装具装具～				向島 充
6	上肢装具の基本的分類 ～肘・肩装具～				向島 充
7	上肢装具の目的・原則				向島 充
8	体幹装具 頭部・頸部				向島 充
9	体幹装具 胸部				向島 充
10	体幹装具 腰部				向島 充
11	体幹装具 仙部				向島 充
12	体幹装具 側湾症とは				向島 充
13	体幹装具 側湾症の装具				向島 充
14	装具の最新トピックス				小谷和男
15	装具の最新トピックス				小谷和男
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版:羊土社				
教授方法	講義				
教材	プリント・教科書				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	義肢装具学Ⅱ	単位数	2単位 30/60時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)・小谷和男(義肢装具士)				
科目概要	各種切断の原因と切断法、術後管理、リハビリテーションについて教授する。 下肢義肢の構造的特性を軸に機能、材料、各種パーツ並びにアタッチメントなどの基本的知識と適合と修正について教授する。 急速に進化する義肢の今後の展開や方向性について論ずる。				
一般目標	切断法、切断術後の理学療法プログラムや切断者の機能に適合した義肢の選択について学習する。 義肢の構造と機能、装着法、異常歩行の原因と修正、切断者の運動療法について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・切断原因の動向と切断法、切断の合併症、術後の理学療法について、その概要を理解する。 ・切断高位や切断者の機能に応じた義肢の選定ができる。 ・下肢義肢、上肢義肢の構造と機能並びに特色の概要を説明できる。 ・異常歩行の原因を考察するとともにその対策ができる。 				
回数	講義内容				
1	切断と義肢の基礎知識				村上和広
2	早期義肢装着法と義足適合の流れ				村上和広
3	大腿切断・膝離断の基本と義足構造				村上和広
4	大腿義足・膝義足のアライメント				村上和広
5	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造				村上和広
6	下腿義足・サイム義足のアライメント				村上和広
7	股離断・片側骨盤切断・足部切断の義足構造とアライメント				村上和広
8	下肢切断の評価-問題点の抽出とその統合				村上和広
9	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法				村上和広
10	切断原因疾患別・活動目的別の義肢と理学療法				村上和広
11	義足装着理学療法と応用動作				村上和広
12	義手の分類と構造・機能、上肢切断の評価と治療				村上和広
13	義肢装具の支給体系とチームアプローチ				村上和広
14	義肢製作:製作過程、ソケット各論、継手各論、足部各論のトピックス				小谷和男
15	義肢の動向(パラアスリートのための義肢を含む)とトピックス				小谷和男
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)				
教授方法	講義				
教材	教科書、配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	機能障害治療科学	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 前期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	機能障害の発生のメカニズムとその治療の考え方について学習し、実際の運動療法の施行するための基本的知識について教授する。				
一般目標	機能障害の発生のメカニズムとその治療について学習し、運動療法の基本的知識を習得する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な機能障害の定義が説明できる。 ・代表的な機能障害の発生メカニズムを説明できる。 ・代表的な機能障害の治療のエビデンスを説明できる。 				
回数	講義内容				
1	炎症				
2	急性痛				
3	慢性痛				
4	創傷				
5	靭帯損傷				
6	腱損傷				
7	骨折				
8	関節可動域制限				
9	筋損傷				
10	筋萎縮				
11	末梢神経損傷				
12	麻痺				
13	筋トーン異常				
14	協調運動障害				
15	意識障害/高次脳機能障害				
教科書 及び 参考書	機能障害科学入門				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学 I	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	知識と技術の統合を図り、臨床実習がより効果的に進められるように学習する				
一般目標	脳卒中の評価と治療プログラムの作成・実施				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患についての基礎知識を確認する。 ・各評価と治療についての基礎知識を確認する。 ・知識と技術の統合を図る。 				
回数	講 義 内 容				
1	脳卒中の症状				
2	脳卒中の評価				
3	脳卒中の治療:急性期				
4	脳卒中の治療:急性期:ステージ別理学療法				
5	脳卒中の治療:急性期:ステージ別理学療法				
6	脳卒中の治療:急性期:実技				
7	脳卒中の治療:回復期:理学療法の目標と効果				
8	脳卒中の治療:回復期:基本動作				
9	脳卒中の治療:回復期:基本動作				
10	脳卒中の治療:回復期:実技				
11	脳卒中の治療:回復期:実技				
12	脳卒中の治療:生活期				
13	脳卒中の治療:生活期:サービス提供体制と理学療法				
14	ケーススタディ①				
15	ケーススタディ②				
教科書 及び 参考書	PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 羊土社				
教授方法	講義・実習				
教材	教科書・プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)				
科目概要	理学療法領域で必要な各疾患を理解しその検査測定を学習する 心臓の解剖・生理・循環器疾患について教授する				
一般目標	整形外科領域の疾患を理解し、さらに必要な検査測定を学習し習得する 心臓の解剖・生理・循環器疾患について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科領域の疾患を理解する ・その疾患に必要な肩鎖測定項目の選択・目的を述べ、さらに実施することが出来る ・心臓の解剖生理の理解と循環器疾患の病態について理解する 				
回数	講義内容				
1	肩関節疾患 解剖・運動学①				
2	肩関節疾患 解剖・運動学②				
3	肩関節疾患 解剖・運動学③				
4	肩関節疾患 各論 症状と評価法(画像の診かた含)				
5	肩関節疾患 各論 治療の実際				
6	循環器疾患の基礎 心臓の解剖・生理①				
7	循環器疾患の基礎 心臓の解剖・生理②				
8	循環器疾患の基礎 心臓の解剖・生理③				
9	循環器疾患の基礎 虚血性心疾患①				
10	循環器疾患の基礎 虚血性心疾患②				
11	循環器疾患の基礎 心不全				
12	循環器疾患の基礎 心臓弁膜症				
13	ストレッチング 実技①				
14	ストレッチング 実技②				
15	ストレッチング 実技③				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学(総論・各論) 整形外科学テキスト				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・参考書・プリント・骨標本				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
	備考				
	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。				

科目名	疾患別理学療法学Ⅲ	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	出口 純次 (理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	各疾患の理解・評価・運動療法について理解し、臨床実習がより効果的に進められるようにする。				
一般目標	Parkinson病の特徴・評価・運動療法について・運動失調症の特徴・評価・運動療法について・脊髄小脳変性症の特徴・評価・運動療法について学習する。				
行動目標	各疾患の特徴等基礎知識、運動療法について述べる事が出来る 各疾患の特徴・基礎知識と運動療法の統合を図る				
回数	講義内容				
1	Parkinson病の疾患の特徴、症状・予後				
2	Parkinson病の症状と評価				
3	Parkinson病の評価の考え方・統合				
4	Parkinson病の運動療法について				
5	Parkinson病の日常生活上の注意点				
6	筋ジストロフィーの病態、特徴、症状、治療、経過				
7	筋ジストロフィーの評価、日常生活動作				
8	筋ジストロフィーの日常生活上の注意点				
9	筋ジストロフィーの運動療法				
10	運動失調症がおこる疾患の特徴と評価				
11	運動失調症評価の考え方・統合				
12	脊髄小脳変性症の基礎知識、評価				
13	脊髄小脳変性症の運動療法				
14	ランバート・イートン症候群の疾患の特徴・症状・予後・評価・運動療法・ADL				
15	シャルコー・マリートゥース病の特徴・症状・予後・評価・運動療法・ADL				
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学各論(医学書院)				
教授方法	講義				
教材	教科書・配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	地域理学療法学 I	単位数	1単位 30時間	開講年次	2学年 後期
担当教員	芳野一也(理学療法士として実務経験 6年)				
科目概要	地域リハビリテーションに関する法規に触れながら、実際の支援について理学療法士として携わり方について学び、その担うべき役割を理解する。				
一般目標	関連法規や制度の概要など、地域理学療法において必要な知識を学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理学療法概念について理解する。 ・地域理学療法に関連する諸制度について理解する。 ・地域理学療法における理学療法士の役割を理解する。 				
回数	講義内容				
1	地域理学療法概念				
2	地域理学療法視点				
3	地域理学療法と社会情勢				
4	地域理学療法と制度				
5	地域理学療法対象と支援方法				
6	起居動作・良肢位				
7	移乗・移動動作				
8	食事動作				
9	排泄動作				
10	社会参加				
11	フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア				
12	認知症				
13	環境的側面				
14	地域の仕組み				
15	世界の地域リハビリテーション				
教科書 及び 参考書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 地域理学療法学				
教授方法	講義 ・ 実習				
教材	教科書 ・ プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	評価実習	単位数	6単位 240 時間	開講年次	2学年 通年
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島 充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)・出口純次(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年に配置した臨床実習をいう。基本時間を240時間とし、これを2期に分け実施する。 ・指導理学療法士の指導の下に、代表的疾患や障害に対する基本的な評価実習(観察、面接、検査・測定、統合・解釈)を行い、知識と技術の統合を図る目標を理解し、以下の目標達成に努める。 				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組み、疑問(問題)解決に努め、指導理学療法士の指導の下で、各自が下記の目標の達成を目指すとともに、今後の学習への意欲を高めることができる。 				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関連部門から必要な情報を収集することができる。 ・既習の知識・技術を確認し、適切な評価法を選択できる。 ・対象疾患や障害に対する一連の評価計画の立案ができる。 ・評価計画に沿って評価を適切な方法で実施できる。 ・関連部門からの情報や評価によって収集したデータと既習の知識を比較・考察することができる。 ・評価対象者の病態や障害像を捉えその概要を要約することができる。 ・対象者の活動を制限する因子や参加を制約する因子を考察し、その大要を述べることができる。 ・評価実習中の対象者の状態や変化を観察するとともに、安全性への配慮ができる。 ・必要な指示・指導・助言を求めることができる。 ・記録を含む報告が適切な時期に正確かつ客観的に行える。 ・対象者との良好な関係を構築できる。 				
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 : 第7章 評価基準(臨床実習の評価) 第55条による。				
備考					
実習基本時間： <ul style="list-style-type: none"> ・1日の基本時間は8時間とする。 ・月～金の平日を実習実施日とする。 ・土曜日は調整日とする。 ・日曜日、祝祭日は原則として休日とする。 ・各期の総時間外学習時間は12時間を超えないものとする。 課題： <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表 ・臨床実習チェックシート ・感想文 実習に際する留意点など： <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・各自、評価法(手順等)、評価技術の確認・演習を行い実習に臨むこと。 ・代表的疾患に対する標準的な評価チャートを準備して実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 					

理学療法専門分野 3 学年

科目名	理学療法研究法	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	出口 純次（理学療法士として実務経験7年）				
科目概要	疑問解決過程を客観的に記述、整理、情報を吟味できるようになる。				
一般目標	研究の必要性を理解し、研究の過程・流れを理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を行う意味、目的の理解 ・研究の過程、流れの理解 ・研究論文作成のプロセスの理解 				
回数	講義内容				
1	理学療法研究の概要				
2	研究デザインの基礎知識				
3	医療倫理と生命倫理				
4	個人情報取り扱い				
5	統計手法				
6	統計手法				
7	文献の読み方				
8	文献の検索と収集の方法				
9	文献の検索と収集				
10	文献の検索と収集				
11	文献の検索と収集				
12	文献抄読会				
13	文献抄読会				
14	文献抄読会				
15	文献抄読会				
教科書 及び 参考書	最新 理学療法学講座 理学療法研究法(医歯薬出版株式会社)				
教授方法	講義				
教材	配布資料				
成績評価	レポート提出。100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	総合理学療法学		単位数	2単位 60時間		開講年次	3学年 後期	
担当教員	仁木半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)・出口純次(理学療法士として実務経験7年)							
科目概要	一般的な理学療法を独立して安全に実施する為に必要な既習の知識の再統合を図る。							
一般目標	一般的な理学療法を独立して安全に実施する為に必要な専門知識の再統合を図る。							
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種疾患についての病態が理解できる ・対象者に適した理学療法プログラムが立案できる。 ・立案した理学療法プログラムのエビデンスが説明できる。 ・理学療法を安全に実施する上でのリスクを説明できる。 ・理学療法を行う上での、装具・器機・制度を理解する 							
回数	講義内容	担当	回数	講義内容	担当	回数	講義内容	担当
1	脳血管疾患	概要と病態の基準	向島充	16	循環器疾患	概要と病態の基準・臨床症状の理解	松田寛子	
2		高齢期疾患と症状の理解	向島充	17		評価の選択と解釈	松田寛子	
3		評価選択と実施法・評価結果の理解	向島充	18		心電図の基礎と理解	松田寛子	
4		治療技術選択と推論・ADLに必要な支援と制度	向島充	19		治療の立案・選択と推論	松田寛子	
5		必要な装具の選択	向島充	20		必要な器機の理解と支援制度	松田寛子	
6	運動器疾患	概要と病態の基礎・臨床症状の理解	芳野一也	21	神経筋疾患	各概要と病態の理解	出口純次	
7		脊髄・脊椎疾患の病態の理解	芳野一也	22		評価の選択と実施	出口純次	
8		評価の選択と実施の基礎・評価結果の解釈	芳野一也	23		治療の選択と実施の基礎	出口純次	
9		治療技術選択と推論	芳野一也	24		代謝・内分泌疾患	概要と病態の理解	出口純次
10		必要な装具の選択と実施	芳野一也	25			必要な治療都教育	出口純次
11	呼吸器疾患	概要と病態の基準・臨床症状の理解	村上和広	26	小児科疾患	子供の誕生と発達・病態の理解	仁木半	
12		評価の選択と実施法・評価結果の解釈	村上和広	27		小児に対する評価の基礎	仁木半	
13		治療の立案と実施	村上和広	28		治療の立案・実施の基礎	仁木半	
14		在宅での治療	村上和広	29		小児科疾患に必要な装具理解	仁木半	
15		必要な器機の理解と支援制度	村上和広	30		保護者への支援とこどもへの支援制度	仁木半	
教科書及び参考書	最新理学療法学講座 理学療法評価学(医歯薬出版)・新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書)・標準理学療法学 運動療法学 総論 第5版(医学書院)・PT・OTビジュアルテキスト 物理療法 第2版(羊土社)・標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版(医学書院)・PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)・予防理学療法学 要論(医歯薬出版)・臨床運動学 第3版(医歯薬出版)・15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 地域理学療法学(中山書店)・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)・標準理学療法学 運動療法学 各論 第5版(医学書院)・PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学(羊土社)・機能障害科学入門(神陵文庫) 他							
教授方法	講義							
教材	教科書・プリント							
成績評価	定期試験6割以上が合格点である。							
備考								
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。								

科目名	理学療法教育管理論	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	芳野一也（理学療法士として実務経験 6年）				
科目概要	理学療法の実施に伴う関連法規や規定、職業倫理、接遇とマナーならびにリハビリテーション診療の流れと理学療法の展開、理学療法部門の管理運営（記録を含む）の概要について教授する。				
一般目標	関連法規、職業倫理、部門管理並びに理学療法の記録法と管理について学習する				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に係わる関連法規や規定の概要を説明できる ・理学療法部門の基本的管理（安全管理・リスクマネジメントを含む）の概要を説明できる ・問題指向型記録法を用い理学療法の記録が出来る 				
回数	講義内容				
1	理学療法の歴史的外観				
2	リハビリテーション診療の流れと管理：理学療法の処方、診療録の作成				
3	理学療法の展開：初期検査・初期計画・理学療法の実施と修正				
4	理学療法記録：記録の必要性、理学療法経過記録、記録上の原則				
5	理学療法記録：記録上の注意事項、各記録間の意味するもの、実際的記録方法				
6	問題指向型記録：POMR（SOAP）について				
7	医療保険制度分野における理学療法				
8	介護保険制度分野における理学療法				
9	リスクマネジメント				
10	理学療法士の職場管理				
11	理学療法士法：業務と業務範囲、守秘義務、名称独占と業務独占、免許				
12	理学療法士法：欠格事項、免許の申請、登録、医療過誤と法的責任				
13	身体障害者手帳：身体障害者とは、身体障害の区分、障害程度区分、手帳交付申請				
14	診療報酬体系：通則、疾患別リハビリテーションの概要				
15	診療報酬体系：診療報酬算定に係わる記載項目、管理				
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義				
教材	プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
	備考				
	当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。				

科目名	疾患別理学療法学・運動器	単位数	1単位 30 時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	向島充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	整形外科的疾患の中でも特に、骨・関節系疾患並びに末梢神経損傷を中心とした理学療法の講義を行う。				
一般目標	骨・関節系統疾患並びに末梢神経損傷に対する理学療法の概要を理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種関節機能を理解するとともに、関節疾患の基本的理学療法の構築ができる。 ・各種骨折の治療の概要を理解するとともに、基本的理学療法の構築ができる。 ・末梢神経損傷治療の概要を理解するとともに、基本的理学療法の構築ができる。 ・関節可動域改善のための基本的運動療法手技の実施ができる。 				
回数	講義内容				
1	肩関節の理学療法	:	肩関節の機能・解剖		
2		:	疾患別の理学療法		
3	肘関節の理学療法	:	肘関節の機能・解剖		
4		:	疾患別の理学療法		
5	上肢骨折の理学療法について				
6	末梢神経損傷の理学療法について				
7	関節リウマチの理学療法	:	総論		
8		:	各論		
9	骨折	:	総論		
10		:	各論：大腿骨頸部骨折		
11		:	各論：下肢骨折のX-P		
12	骨粗鬆症	:	総論：運動療法		
13	膝関節疾患	:	総論(機能解剖)：理学療法		
14	関節可動域制限	:	総論：運動療法		
15		:	各論：実技		
教科書 及び 参考書					
教授方法	講義・実技				
教材	プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学・呼吸器	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	村上和広(理学療法士として実務経験 5年)・柳澤幸夫(理学療法士として実務経験 17年)				
科目概要	呼吸リハビリテーションについて、基礎となる聴診やフィジカルアセスメント、胸部画像の基礎、血液ガスの解釈などについて教授するとともに、呼吸介助法や喀痰吸引を含む排痰法の実技を指導する。				
一般目標	呼吸リハビリテーションの概要を理解する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸療法の概要が説明できる。 ・基礎的聴診法が理解できる。 ・フィジカルアセスメントの概要を説明できる。 ・血液ガスの基礎的解釈ができる。 ・呼吸介助法、排痰法(喀痰吸引を含む)の基礎的手技ができる。 				
回数	講義内容				
1	呼吸リハビリテーションのフィジカルアセスメント:1				柳澤幸夫
2	呼吸リハビリテーションのフィジカルアセスメント:2				柳澤幸夫
3	胸部画像の基礎知識				柳澤幸夫
4	胸部画像の見方				柳澤幸夫
5	外科術前・術後における呼吸リハビリテーション				柳澤幸夫
6	呼吸介助法・聴診・排痰法・吸引について				柳澤幸夫
7	呼吸介助法・聴診・排痰法・吸引について(実技)				柳澤幸夫
8	呼吸介助法・聴診・排痰法・吸引について(実技)				柳澤幸夫
9	酸素療法:1(HOTを含む)について				村上和広
10	酸素療法:2・人工呼吸器について				村上和広
11	血液ガスの基礎知識				村上和広
12	血液ガスの異常と解釈				村上和広
13	運動療法の考え方・実際について				村上和広
14	患者教育の考え方と方法について				村上和広
15	患者教育の実践について				村上和広
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義				
教材	配布資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学・循環器	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	松田 寛子(理学療法士として実務経験5年)・高瀬 広詩(理学療法士として実務経験19年)				
科目概要	循環器系の基礎と心疾患リハビリテーションの歴史、理学療法の実際(評価・運動療法・リスク管理)まで幅広く学習する。				
一般目標	循環器系の基礎をいかに臨床に応用していくかを学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患及び、心不全の病態を説明することができる。 ・循環器疾患の評価・検査・治療を説明することができる。 ・心電図の基礎を理解し、判読結果をリスク管理に生かすことができる。 ・循環器疾患の理学療法の目的・評価・実技・リスク管理について説明することができる。 				
回数	講義内容				
1	心疾患リハビリテーションの概要について				高瀬 広詩
2	解剖学「心臓」「刺激伝導系」について				高瀬 広詩
3	解剖学「血管系」「リンパ系」について				高瀬 広詩
4	生理学「循環生理」「刺激伝導系」について				高瀬 広詩
5	生理学「運動生理」について				高瀬 広詩
6	生理学「脱調節」「加齢による生理学的変化」について				高瀬 広詩
7	心電図の診かた「心電図の基礎」について				高瀬 広詩
8	心電図の診かた「心電図の判読」「不整脈」について				高瀬 広詩
9	循環器疾患について				松田 寛子
10	心不全について				松田 寛子
11	循環器疾患の検査・測定について				松田 寛子
12	循環器疾患の治療(外科系・内科系)について				松田 寛子
13	循環器疾患の運動療法と運動の効果について				松田 寛子
14	リハビリテーションにおけるリスク管理について				松田 寛子
15	包括的心臓リハビリテーション(再発予防)について				松田 寛子
教科書 及び 参考書	標準理学療法学 運動療法学(総論・各論) プリント配付				
教授方法	講義・実技				
教材	教科書・プリント・視聴覚教材				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格である				
配点割合					
	備考				
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学・小児期	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年) 廣島伸哉(理学療法士として実務経験27年)				
科目概要	正常発達と小児期にみられる代表的な疾患の病理、発達への影響、治療を理解する。				
一般目標	脳性麻痺および小児期にみられる代表的整形外科疾患を中心に発達障害児に対する治療方法や目的を学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常発達や姿勢反射について説明できる。 ・脳性麻痺の代表的なタイプの臨床像を述べ、かつ簡単に治療原則を説明できる。 ・脳性麻痺に対する治療やバランス反応等を実技を交え経験する。 ・小児期にみられる代表的整形外科疾患の症状や治療法を説明できる。 				
回数	講義内容				
1	こどもに接するには	：こどものリハビリテーションの特殊性			廣島伸哉
2		：発達障害児と接するポイント			廣島伸哉
3	正常発達と反射	：小児体験モデル人形			廣島伸哉
4	ポジショニング				廣島伸哉
5	脳性麻痺について	：脳性麻痺の分類（姿勢・動作分析）			廣島伸哉
6		：低出生体重児、ハイリスク児、重症児、運動発達遅滞児			廣島伸哉
7	各疾患について	：ダウン症候群、小児整形外科疾患（先天性股関節脱臼）			廣島伸哉
8		：ペルテス病、二分脊椎等			廣島伸哉
9		：神経筋疾患			仁木半
10	小児の装具療法について				仁木半
11	ボバース治療概念について	：正常中枢性姿勢制御機構とは			仁木半
12	実技	：支持面と姿勢緊張の関係について			仁木半
13		：バランス、RIP、KP			仁木半
14		：脳性麻痺に対する治療			仁木半
15	最近の脳性小児麻痺に対する	：PVLとは			仁木半
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付 こどもの理学療法（神陵文庫出版部） 小児疾患の理学療法（中山書店） こどものリハビリテーション医学（医学書院） PTO Tのための小児の反射と発達の診かた（新興医学出版社） 脳性麻痺ハンドブック（医歯薬出版株式会社） 脳性麻痺の反射検査（医歯薬出版株式会社） 運動発達と反射（神陵文庫）				
教授方法	講義 実技				
教材	配付資料				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	疾患別理学療法学・老年期	単位数	1単位 30 時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年) ・ 鷺 春夫(理学療法士として実務経験23年)				
科目概要	高齢化とも相俟って増加をみせる老年期疾患に対する理学療法並びに地域リハビリテーションの重要性について教授するとともに、アプローチの基礎となる医学的知識や加齢変化と運動療法の特徴やアプローチについて教授する。				
一般目標	加齢に伴う生理学的変化やその特徴を学習する。また、『寝たきり（寝かせきり）』と『認知症』を中心に理学療法士として必要な医学的知識および運動療法の特徴について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の治療や療養、家庭復帰、地域リハビリテーションの概要を説明できる。 ・ 変形性関節症に対する理学療法プログラムの立案と基本的な運動療法の実施ができる。 ・ 『寝たきり（寝かせきり）』や『認知症』の概要を説明できる。 ・ 高齢者に対する理学療法に必要な医学的知識を確認する。 ・ 高齢者に対する運動療法の特性について説明できる。 ・ 日常生活行為の支援、物理環境整備、生活構造の拡大などに対するアプローチの概要を理解する。 ・ 老化と廃用症候群への対策、寝かせきり・座らせきりの改善に対するアプローチの概要を理解する。 				
回数	講 義 内 容				
1	心身機能の加齢変化（1）				鷺春夫
2	心身機能の加齢変化（2）				鷺春夫
3	老年期疾患の特徴（1）				鷺春夫
4	老年期疾患の特徴（2）				鷺春夫
5	廃用症候群とその対策（1）				鷺春夫
6	廃用症候群とその対策（2）				鷺春夫
7	廃用症候群とその対策（3）				鷺春夫
8	寝たきり高齢者の運動療法				鷺春夫
9	寝かせきりの改善、座らせきりの改善と運動療法				仁木半
10	認知症高齢者の運動療法（1）				仁木半
11	認知症高齢者の運動療法（2）				仁木半
12	日常生活行為の支援				仁木半
13	物理環境的アプローチ				仁木半
14	生活構造の拡大化				仁木半
15	I C Fに基づいたアプローチ				仁木半
教科書 及び 参考書	必要に応じて資料を配付				
教授方法	講義・実技				
教材	配付資料・視聴覚教材				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	地域理学療法学Ⅱ	単位数	1単位 30時間	開講年次	3学年 後期
担当教員	向島 充(理学療法士として実務経験6年)				
科目概要	介護保険の設立過程やその概要、また介護保険におけるリハビリテーションの意義とその位置づけについて教授する。障害者自立支技法と障害区分認定プロセス、障害程度と区分の概要並びに老人保健法における保健事業(医療等・機能訓練・訪問指導)の概要と理学療法士の役割について教授する。				
一般目標	介護保険制度及び、障害者自立支援法、老人保健法の概要と理学療法士の役割について学習する。				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の申請の流れ、サービス内容について説明できる。 ・介護保険、医療保険でのリハビリテーションの違いについて説明できる。 ・退院、退所支援において住宅改修・福祉用具について提案できる。 ・利用者・家族の立場にたったサービスの提案・実施ができる。 ・介護保険制度、障害者自立支援法、老人保健法と理学療法士の役割を説明できる。 				
回数	講義内容				
1	介護保険制度導入の背景、制度の概要				
2	介護保険制度の利用・介護サービス情報の公表				
3	介護認定調査と要介護・要支援認定の流れ				
4	介護支援専門員について・地域支援事業・認知症の事例と対応について				
5	介護保険サービス(在宅)について				
6	介護保険サービス(施設)について・医療費と後期高齢者医療制度・特定疾患				
7	生活保護制度・地域権利擁護事業・成年後見制度・障害者自立支援法、重度医療				
8	住宅改造制度				
9	介護保険制度とリハビリテーションの概要				
10	障害者自立支技法の概要と障害程度区分認定プロセス				
11	障害程度区分の基準(区分1～区分6)				
12	自立支援法:介護給付、訓練等給付、自立支援医療				
13	訓練等給付:自立訓練(機能訓練・生活訓練)と理学療法士の役割				
14	老人保健法における保健事業:医療等、機能訓練、訪問指導と理学療法士の役割				
15	CBRにおける理学療法士の役割				
教科書 及び 参考書					
教授方法	講義				
教材	プリント				
成績評価	定期試験100点満点中60点以上が合格点である。				
備考					
当該科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

科目名	総合臨床実習	単位数	14単位 560 時間	開講年次	3学年 前期
担当教員	仁木 半(理学療法士として実務経験7年)・松田寛子(理学療法士として実務経験5年) 村上和広(理学療法士として実務経験5年)・向島 充(理学療法士として実務経験6年) 芳野一也(理学療法士として実務経験6年)・出口純次(理学療法士として実務経験7年)				
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年に配置した臨床実習をいう。 ・既習の知識や技術を統合、展開し、臨床という場でなければ学ぶことのできない接遇や対応、また理学療法の実践的な技術、チームアプローチについて指導理学療法士の下で学ぶ。 ・理学療法に最低限必要な医療面接や検査・測定を実施するとともに、得られたデータをもとに問題点の抽出や障害となる要因などについて、指導理学療法士の下で考察する。 ・指導理学療法士の下で、治療(介入)計画の立案について学ぶとともに、理学療法(運動療法や物理療法等)の実習を行う。 				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校臨床実習に規定する責務要綱並びに臨床実習施設に定められた規則やリスク管理の規則を遵守するとともに、指導理学療法士等の指示・指導に従うことができる。 ・主体的かつ積極的に実習に取り組み、疑問(問題)解決に努め、指導理学療法士の指導の下で、各自が下記の目標の達成を目指すとともに、今後の学習への意欲を高めることができる。 				
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象例に即した医学的基礎知識を事前に確認できる。 ・指示や処方内容を正確に読み取ることができる。 ・医療面接、検査測定の実施並びに記録ができる。 ・対象例の問題点と理学療法士が援助可能な事項を挙げることができる。 ・短期、長期の理学療法目標の設定と目標達成のための理学療法計画の立案ができる。 ・対象者の変化等に対応した報告、理学療法計画の修正ができる。 ・対象者に対して丁寧で分かりやすい説明ができる。 ・対象例に即した基本的な運動療法や物理療法等の実施ができる。 ・対象者との良好な関係を構築できる。 				
成績評価	学生便覧 徳島医療福祉専門学校 履修規程 : 第7章 評価基準(臨床実習の評価) 第55条による。				
備考					
実習基本時間： <ul style="list-style-type: none"> ・1日の基本時間は8時間とする。 ・月～金の平日を実習実施日とする。 ・土曜日は調整日とする。 ・日曜日、祝祭日は原則として休日とする。 ・各期の総時間外学習時間は35時間を超えないものとする。 課題： <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表 ・臨床実習チェックシート ・感想文 実習に際する留意点など： <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習ガイダンス並びに臨床実習施設別オリエンテーションを必ず受講し実習に臨むこと。 ・各自、運動療法や評価学、臨床医学一般についての知識の確認を行い実習に臨むこと。 ・実習前評価(技術試験等)を受け実習に臨むこと。 ・必要な参考図書・資料・器具・臨床実習の手引きを携帯すること。 ・実習期間中の健康管理に努めること。 ・実習後評価(面接・口頭試問等)を受け実習の総括を行うこと。 					

- 資料1 理学療法学科 テキスト一覧
- 資料2 理学療法学科 カリキュラムマップ
- 資料3 教育課程表（1・2学年）
- 資料4 教育課程表（3学年）

資料1 令和8年度 理学療法学科 テキスト一覧

共通書籍		出版社
1 年次	心理学・入門	有斐閣アルマ
	絵本のひみつ	徳島新聞社
	系統看護学講座基礎分野 教育学 第8版	医学書院
	看護・医療技術者のためのたのしい物理 初版	オーム社
	新体系 看護学全書 生物学 第1版	メディカルフレンド社
	20Medical Daiagon	鷹書房弓プレス
	Hyper Listening(Intermediate) 4thEdition	桐原書店
	PT・OT・STのための解剖学 初版	廣川書店
	日本人体解剖学 上巻 改訂20版	南山堂
	日本人体解剖学 下巻 改訂20版	南山堂
	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 生理学	羊土社
	基礎運動学 第7版補訂	医歯薬出版
	薬学生のための基礎シリーズ4 基礎統計	培風館
2 年次	コメディカルのための生理学ノート ※プリント	
	カラーで学べる病理学 第6版	ヌーベルヒロカワ
	メディカルスタッフのための内科学 第5版	医学出版社
	整形外科学テキスト 改定第5版	南江堂
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	医学書院
	最新育児小児病学 改訂第7版	南江堂
	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第6版	医学書院
	PT・OT・STのための一般臨床医学 第4版	医歯薬出版
	最新リハビリテーション医学 第3版	医歯薬出版
PT専門書籍		
1 年次	3ステップで学ぶ理学療法スタートブック	ヒューマン・プレス
	リハビリテーション概論のいろは	南江堂
	カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法	医歯薬出版
	最新理学療法学講座 理学療法評価学	医歯薬出版
	新・徒手筋力検査法 原著第10版	協同医書
	標準理学療法学 運動療法学 総論 第5版	医学書院
	PT・OTビジュアルテキスト 物理療法 第2版	羊土社
	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版	医学書院
	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版	羊土社
	予防理学療法学 要論	医歯薬出版
	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能11	医学書院
2 年次	臨床運動学 第3版	医歯薬出版
	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 地域理学療法学	中山書店
	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版	南山堂
	標準理学療法学 運動療法学 各論 第5版	医学書院
	PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学	羊土社
機能障害科学入門	神陵文庫	

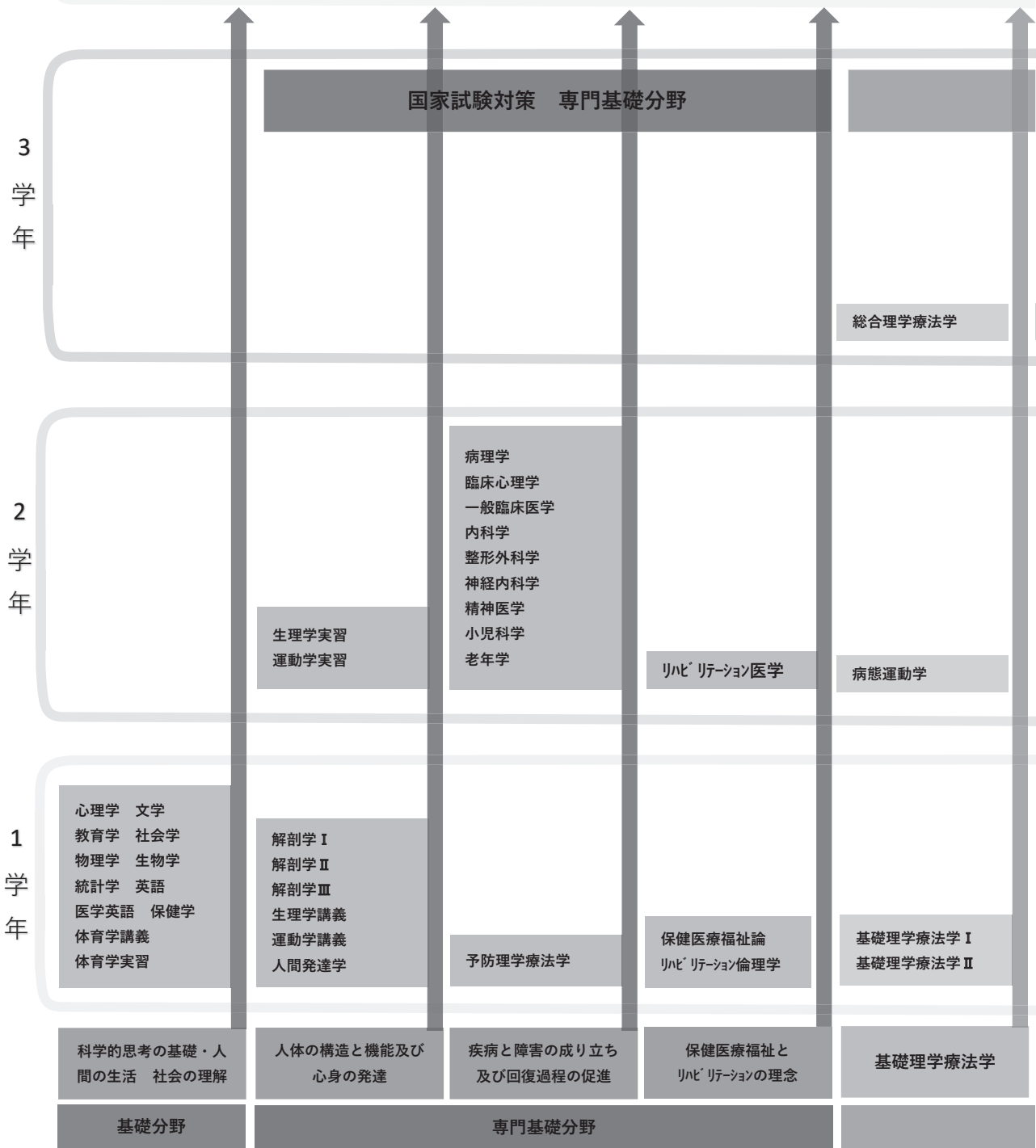
資料2

理学療法学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

全科目単位履修

理学療法士及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し豊富な単位の履修ができる。

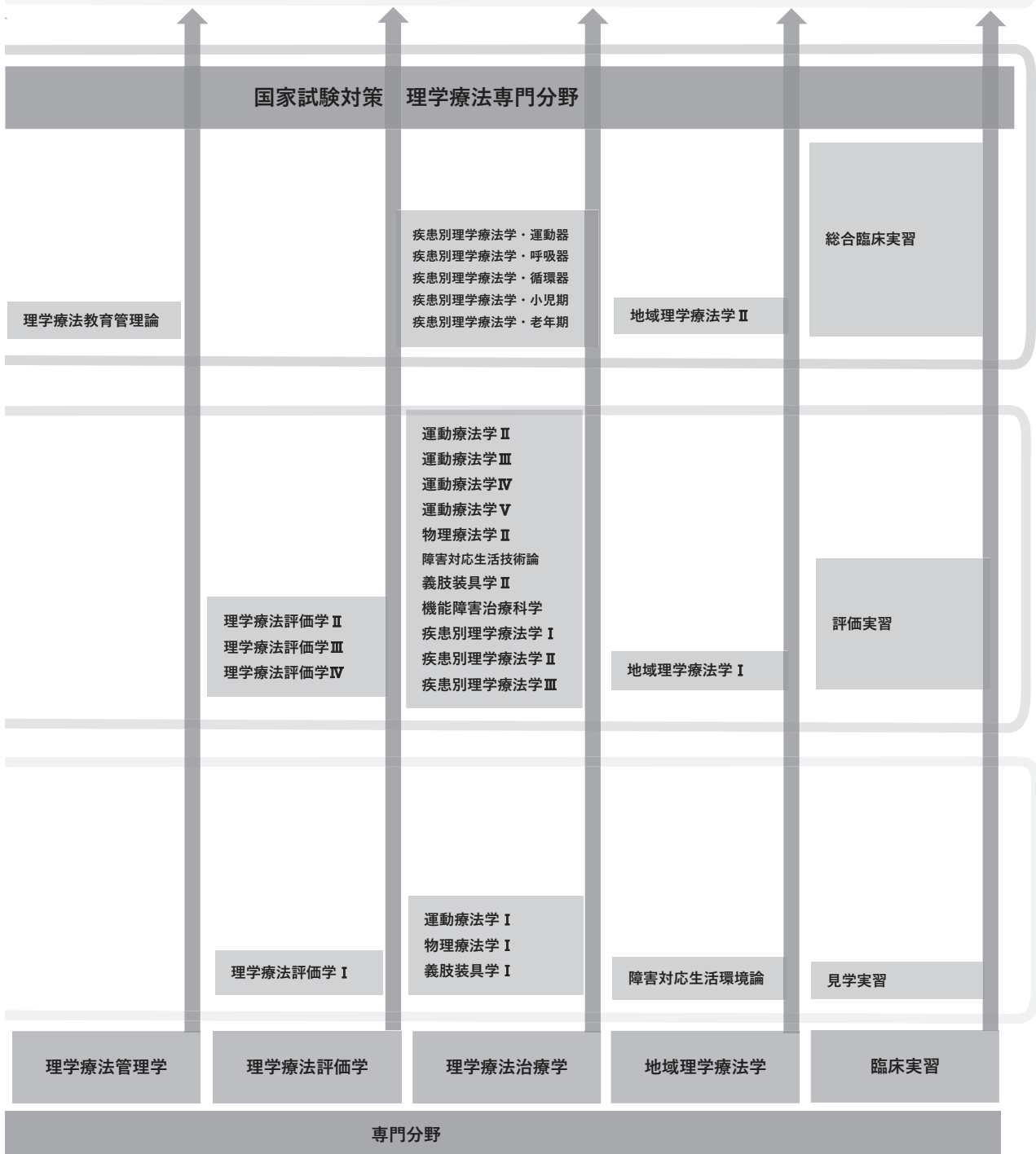


最短年限で履修

リハビリテーションの対象となる人たちに最善を尽くすことができる質の高い理学療法士を最短年限で履修することができる。

優れた人材育成

専門的知識・技術及び技能が獲得できる。
コミュニケーション能力や協調性を養うことができる。
即戦力となる実践力がある。
探求心・向上心を備え医療・福祉に寄与できる。



教育課程表

理学療法学科 1・2学年

				1 年		2 年		3 年		
科 目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	人文	心理学	2	60	1 (30)	1 (30)				
		文学	1	30	1 (30)					
	社会	教育学	1	30		1 (30)				
		社会学	1	30	1 (30)					
	自然	物理学	1	30	1 (30)					
		生物学	2	60	1 (30)	1 (30)				
		統計学	1	30	1 (30)					
	外国語	英語	1	30	1 (30)					
		医学英語	1	30		1 (30)				
	保健体育	保健学	講義	1	30		1 (30)			
		体育学	講義	1	30		1 (30)			
		体育学	実習	1	30	1 (30)				
	基礎分野合計		14	420	8 (240)	6 (180)				

				1 年		2 年		3 年		
科 目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎分野	I	解剖学Ⅰ	2	60	2 (60)					
		解剖学Ⅱ	2	60		2 (60)				
		解剖学Ⅲ	2	60		2 (60)				
		生理学	講義	3	90	1 (30)	2 (60)			
		生理学	実習	1	45			1 (45)		
		運動学	講義	1	30		1 (30)			
		運動学	実習	1	45			1 (45)		
		人間発達学		1	30		1 (30)			
	小計		13	420	3 (90)	8 (240)	2 (90)			
	II	病理学	1	30			1 (30)			
		臨床心理学	1	30			1 (30)			
		一般臨床医学	1	30				1 (30)		
		内科学	2	60			1 (30)	1 (30)		
		整形外科	2	60			1 (30)	1 (30)		
神経内科学		2	60			1 (30)	1 (30)			
精神医学		2	60			1 (30)	1 (30)			
小児科学		1	30			1 (30)				
老年学		1	30				1 (30)			
予防理学療法	1	30	1 (30)							
小計		14	420	1 (30)		7 (210)	6 (180)			
III	保健医療福祉論	2	60	1 (30)	1 (30)					
	リハビリテーション倫理学	1	30	1 (30)						
	リハビリテーション医学	1	30			1 (30)				
小計		4	120	2 (60)	1 (30)	1 (30)				
専門基礎分野合計		31	960	6 (180)	9 (270)	10 (330)	6 (180)			

				1 年		2 年		3 年	
科 目	単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
			I (a)	基礎理学療法 I	1	30	1 (30)		
	基礎理学療法 II	1	30	1 (30)					
	理学療法研究法	1	30					1 (30)	
	病態運動学	2	60			1 (30)	1 (30)		
	総合理学療法	2	60					2 (60)	
小計		7	210	2 (60)	0 (0)	1 (30)	1 (30)	0 (0)	3 (90)
I (b)	理学療法職業倫理学	1	30					1 (30)	
	理学療法教育管理論	1	30					1 (30)	
小計		2	60	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (60)
II	理学療法評価学 I	2	60	1 (30)	1 (30)				
	理学療法評価学 II	2	60			1 (30)	1 (30)		
	理学療法評価学 III	2	60			1 (30)	1 (30)		
	理学療法評価学 IV	2	60			1 (30)	1 (30)		
小計		8	240	1 (30)	1 (30)	3 (90)	3 (90)	0 (0)	0 (0)
III	運動療法学 I	1	30		1 (30)				
	運動療法学 II	1	30			1 (30)			
	運動療法学 III	1	30				1 (30)		
	運動療法学 IV	1	30				1 (30)		
	運動療法学 V	1	30				1 (30)		
	物理療法学 I	1	30		1 (30)				
	物理療法学 II	2	60			1 (30)	1 (30)		
	障害対応生活技術論	2	60			1 (30)	1 (30)		
	義肢装具学 I	1	30		1 (30)				
	義肢装具学 II	2	60			1 (30)	1 (30)		
IV	機能障害治療科学	1	30			1 (30)			
	疾患別理学療法 I	1	30				1 (30)		
	疾患別理学療法 II	1	30				1 (30)		
	疾患別理学療法 III	1	30				1 (30)		
	疾患別理学療法 IV	1	30					1 (30)	
	疾患別理学療法 V	1	30					1 (30)	
	疾患別理学療法 VI	1	30					1 (30)	
	小計		20	600	0 (0)	3 (90)	5 (150)	9 (270)	0 (0)
V	障害対応生活環境論	1	30	1 (30)					
	地域理学療法 I	1	30				1 (30)		
	地域理学療法 II	1	30					1 (30)	
小計		3	90	1 (30)			1 (30)	1 (30)	
VI	見学実習	2	80		2 (80)				
	評価実習	6	240			3 (120)	3 (120)		
	総合臨床実習	14	560					14 (560)	
小計		22	880	0 (0)	2 (80)	3 (120)	3 (120)	14 (560)	0 (0)
専門分野合計		62	2080	4 (120)	6 (200)	12 (390)	17 (540)	14 (560)	9 (270)
総計		107	3460	18 (540)	21 (650)	22 (720)	23 (720)	14 (560)	9 (270)
学年別単位数				39(1190)		45(1440)		23(830)	

()内 時間数

教育課程表

理学療法学科 3学年

				1 年		2 年		3 年		
科 目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	人文	心理学	2	60	1 (30)	1 (30)				
		文学	1	30	1 (30)					
	社会	教育学	1	30		1 (30)				
		社会学	1	30	1 (30)					
	自然	物理学	1	30	1 (30)					
		生物学	2	60	1 (30)	1 (30)				
		統計学	1	30	1 (30)					
	外国語	英語	1	30	1 (30)					
		医学英語	1	30		1 (30)				
	保健体育	保健学	講義	1	30		1 (30)			
		体育学	講義	1	30		1 (30)			
		体育学	実習	1	30	1 (30)				
	基礎分野合計		14	420	8 (240)	6 (180)				

				1 年		2 年		3 年		
科 目		単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎分野	I	解剖学Ⅰ	2	60	2 (60)					
		解剖学Ⅱ	2	60		2 (60)				
		解剖学Ⅲ	2	60		2 (60)				
		生理学	講義	3	90	1 (30)	2 (60)			
		生理学	実習	1	45			1 (45)		
		運動学	講義	1	30		1 (30)			
		運動学	実習	1	45			1 (45)		
		人開発達学	1	30		1 (30)				
	小計	13	420	3 (90)	8 (240)	2 (90)				
	II	病理学	1	30	1 (30)					
		臨床心理学	1	30			1 (30)			
		一般臨床医学	1	30				1 (30)		
		内科学	2	60			1 (30)	1 (30)		
		整形外科	3	90			2 (60)	1 (30)		
神経内科学		2	60			1 (30)	1 (30)			
精神医学		1	30			1 (30)				
小児科学		1	30			1 (30)				
老年学		1	30				1 (30)			
予防理学療法	1	30	1 (30)							
小計	14	420	2 (60)		7 (210)	5 (150)				
III	保健医療福祉論Ⅰ	1	30	1 (30)						
	保健医療福祉論Ⅱ	1	30		1 (30)					
	リハビリテーション倫理学	1	30	1 (30)						
	リハビリテーション医学	1	30			1 (30)				
小計	4	120	2 (60)	1 (30)	1 (30)					
専門基礎分野合計		31	960	7 (210)	9 (270)	10 (330)	5 (150)			

					1 年		2 年		3 年	
科 目			単位数	時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 分 野	I (a)	基礎理学療法学Ⅰ	講義	1	30	1 (30)				
		基礎理学療法学Ⅱ	講義	1	30	1 (30)				
		基礎理学療法学Ⅲ	講義	1	30	1 (30)				
		理学療法研究法	講義	1	30					1 (30)
		病態運動学	講義	1	30			1 (30)		
		総合理学療法学	講義	2	60					2 (60)
		小計		7	210	3 (90)		1 (30)		3 (90)
	I (b)	理学療法職業倫理学	講義	1	30			1 (30)		
		理学療法教育管理論	講義	1	30					1 (30)
		小計		2	60			1 (30)		1 (30)
	II	理学療法評価学Ⅰ	講義	2	60		2 (60)			
		理学療法評価学Ⅱ	講義	3	90			3 (90)		
		理学療法評価学Ⅲ	実習	2	90				2 (90)	
		小計		7	240		2 (60)	3 (90)	2 (90)	
	III	運動療法学Ⅰ	講義	1	30		1 (30)			
		運動療法学Ⅱ	講義	1	30			1 (30)		
		運動療法学Ⅲ	実習	2	90				2 (90)	
		物理療法学Ⅰ	講義	1	30		1 (30)			
		物理療法学Ⅱ	講義	1	30			1 (30)		
		物理療法学Ⅲ	実習	1	45				1 (45)	
		障害対応生活技術論Ⅰ	講義	1	30			1 (30)		
		障害対応生活技術論Ⅱ	実習	1	45				1 (45)	
義肢装具学Ⅰ		講義	1	30		1 (30)				
義肢装具学Ⅱ		講義	1	30			1 (30)			
義肢装具学Ⅲ		実習	1	45				1 (45)		
機能障害治療科学		講義	1	30			1 (30)			
疾患別理学療法学総論		実習	2	90				2 (90)		
疾患別理学療法学・運動器		講義	1	30					1 (30)	
疾患別理学療法学・呼吸器		講義	1	30					1 (30)	
疾患別理学療法学・循環器		講義	1	30					1 (30)	
疾患別理学療法学・小児期		講義	1	30					1 (30)	
疾患別理学療法学・老年期		講義	1	30					1 (30)	
小計		20	705		3 (90)	5 (150)	7 (315)		5 (150)	
IV	障害対応生活環境論	講義	1	30	1 (30)					
	地域理学療法学Ⅰ	講義	1	30			1 (30)			
	地域理学療法学Ⅱ	講義	1	30					1 (30)	
	小計		3	90	1 (30)		1 (30)		1 (30)	
V	見学実習		2	80		2 (80)				
	評価実習		6	240			3 (120)	3 (120)		
	総合臨床実習		14	560					14 (560)	
	小計		22	880		2 (80)	3 (120)	3 (120)	14 (560)	
専門分野合計			61	2185	4 (120)	7 (230)	12 (390)	14 (585)	14 (560)	10 (300)
総計			106	3565	19 (570)	22 (680)	22 (720)	19 (735)	14 (560)	10 (300)
学年別単位数					41(1250)		41(1455)		24(860)	

()内 時間数

学校法人 勝浦学園

徳島医療福祉専門学校 理学療法学科

〒771-4307

徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字平 128-1

TEL (0885) 42-4810 FAX (0885) 42-4815